

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(2 枚のうち 1 枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般 外国人・社会人
試験科目	外国語問題(英語)		

問題1 以下の英文を自然な日本語に訳しなさい。

John R. Searle, *The Rediscovery of the Mind*, Cambridge, Massachusetts: MIT Press, 1992 (pb. 1994), p. 83, ll. 13-30.

<NOTES>

- anesthetic : a substance or drug capable of either reducing or eliminating the feeling of pain in the body
- rheostat : a variable resistor used to control and change the amount of current flowing in an electric circuit

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(2 枚のうち 2 枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般 外国人・社会人
試験科目	外国語問題(英語)		

問題2 以下の英文を自然な日本語に訳しなさい。

Paula LaRocque, *The Book on Writing: The Ultimate Guide to Writing Well*,
Arlington, Texas: Grey and Guvnor Press, 2003, p.135, ll. 3-23.

2025 年度 1 期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学専攻 選抜区分 一般選抜

科目名 外国語問題（英語）

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は，その旨を記載願います。】

問題 1 ・ 問題 2

出題意図：

2つの異なるテーマで書かれた英文をそれぞれ日本語に訳すことにより、本専攻で学ぶ上で必要となる基本的な英文読解力を備え、論旨を踏まえた正確な解釈ができているかを問う。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(6枚のうち 1枚目)

専攻名	人文学	選抜区分	一般 外国人・社会人
試験科目	認知科学		

問題1 次のページから始まる英文を読んで設問に答えなさい。

(1)下線部①を訳しなさい。

(2)下線部②について、複数のドメインに関わるメタ認知を測定するには次の2つのステップが取られる。ステップ1:タスクXについて、それが成功した(正答した)か失敗したか(誤回答した)を判断させる。ステップ2:ステップ1の判断についての自信を答えさせる。なぜステップ1だけでは不十分で、ステップ2を実施しないといけないのか説明しなさい。

(3)下線部③にある metacognitive sensitivity と metacognitive bias を説明しなさい。二つがどのように異なるかが明確になるように説明すること。

(4)Figure 2 では、下の段にある二つのグラフはドメインによる metacognitive sensitivity の違いがきちんと測定できている状態を示しており、上の段の二つはそれがきちんと測定できていない状態を示している。なぜ上の段のグラフではドメインによる metacognitive sensitivity の違いがきちんと測定できていないことになるのか説明しなさい。

引用元

Rouault M, McWilliams A, Allen MG, Fleming SM. (2018). Human metacognition across domains: Insights from individual differences and neuroimaging. *Personality Neuroscience*, 1, e17. 1頁本文27行目から-3頁3行目 (行数にはアブストラクトを含む)

(6 枚のうち 2 枚目)

(6 枚のうち 3 枚目)

(6 枚のうち 4 枚目)

問題2. 以下の3問全てにそれぞれ回答しなさい

- (1)有意水準(α)は通常は 5%に設定されているが, 1%に設定することも可能である。1%に設定することのメリットとデメリットについて説明しなさい。
- (2)ある臨床心理学的処置が状態不安の高さに与える影響を調べるために, 20 人の実験参加者に対して, 処置を行う前(プレテスト)と 3 ヶ月間の介入を行った後(ポストテスト)に人前でスピーチを行う場面での状態不安の高さを心理尺度を利用して測定した。その結果, プレテストよりもポストテストで状態不安の高さが有意に低下していたことから, この処置は効果があると結論した。この研究の問題点と必要な実験計画の修正について説明しなさい。
- (3)3 種類の広告A, B, Cの魅力を比較するために, 6 名の実験参加者に 0 点から 10 点で評価してもらった。以下がその結果である。広告A, B, Cを 6 名に評価してもらう際にはどのような順序で行う必要があるか, またあなたなら以下のデータにどのような統計的分析を行うか, 使用する検定の種類等を挙げて分析の流れについて説明しなさい。実際に計算を行う必要はない。

参加者	広告 A	広告 B	広告 C
1	10	6	6
2	7	4	5
3	6	4	5
4	9	6	7
5	8	5	7
6	8	5	6
平均	8.00	5.00	6.00

問題3. 以下から2つ選んで答えなさい。

- (1) 人の脳の前頭葉, 扁桃体, 視床について, それぞれの役割を説明しなさい。
- (2) 意味記憶, エピソード記憶, 手続き記憶の違いについて説明しなさい。
- (3) 比較文化心理学におけるエティックアプローチとエミックアプローチを, 例を用いながら説明しなさい。
- (4) 機械学習にはどのような種類があるか, また心理学的研究にどのように応用可能か 1 つ以上の例を挙げて説明しなさい。
- (5) ヒト以外の動物が抽象的な概念(カテゴリ, 数, 同異等の関係性等)を持つことを証明するためには, どのような研究が必要であるか。概念の種類(カテゴリ, 数, 同異等の関係性等)を 1 つ指定して, 実験の仮想例を挙げて説明しなさい。

問題4. 以下の用語から 5 つ選んで簡潔に説明しなさい。

- (1) 馴化－脱馴化法
- (2) 記憶の系列位置効果
- (3) 強化スケジュール(オペラント条件づけ)
- (4) 味覚嫌悪条件づけ
- (5) 自己効力(セルフ・エフィカシー)
- (6) IAT(潜在連合テスト)
- (7) 大きさの恒常性
- (8) 根本的な帰属の誤り
- (9) 利用可能性ヒューリスティック
- (10) 脳のブローカ野とウェルニッケ野

専攻名 人文学 選抜区分 一般

科目名 認知科学

解答例又は出題意図

問題1 次のページから始まる英文を読んで設問に答えなさい。

(1) 下線部①を訳しなさい。

メタ認知は、認知に関する認知と定義される。他の認知プロセスについてよく考えたり、それらのプロセスを監視したり制御したりする能力である。以下で詳しく説明するが、実験室ではメタ認知を調べるために、個人があるタスクにおける自分のパフォーマンスに対して下す判断を記録する。例えばある決断についての自信であるとか、学習が成功したかどうかの判断などである(二次的判断)。

(2) 下線部②について、複数のドメインに関わるメタ認知を測定するには次の2つのステップが取られる。ステップ1:タスク X について、それが成功した(正答した)か失敗したか(誤回答した)を判断させる。ステップ2:ステップ1の判断についての自信を答えさせる。なぜステップ1だけでは不十分で、ステップ2を実施しないといけないのか説明しなさい。

ステップ1の判断はそれぞれのタスクドメインの特徴に依存するため、それらを複数のドメインで比較するのは適切ではないから。

(3) 下線部③にある metacognitive sensitivity と metacognitive bias を説明しなさい。二つがどのように異なるかが明確になるように説明すること。

Metacognitive sensitivity は正しい判断と誤った判断を区別できるかどうかで、metacognitive bias は全体的な自信のレベルの高低のことである。例えば自分の判断について全体的に自信がない人でも、正しい判断についての自信と誤った判断についての自信がきちんと区別可能な場合があり得る。

(4) Figure 2 では、下の段にある二つのグラフはドメインによる metacognitive sensitivity の違いがきちんと測定できている状態を示しており、上の段の二つはそれがきちんと測定できていない状態を示している。なぜ上の段のグラフではドメインによる metacognitive sensitivity の違いがきちんと測定できていないことになるのか説明しなさい。

Metacognitive sensitivity は簡単なタスクで高くなりやすいため、比較しようとする複数のタスクの間でパフォーマンスのレベルに違いがあると、タスクによって metacognitive sensitivity が違うとは言えない。ドメインによる metacognitive sensitivity の違いをきちんと測定するためにはタスク間のパフォーマンスレベルを統一する必要がある。

引用元

Rouault M, McWilliams A, Allen MG, Fleming SM. (2018). Human metacognition across domains: Insights from individual differences and neuroimaging. *Personality Neuroscience*, 1, e17. 1 頁本文 27 行目から 3 頁 3 行目 (行数にはアブストラクトを含む)

問題2. 以下の3問全てにそれぞれ回答しなさい

- (1) 有意水準(α)は通常は 5%に設定されているが、1%に設定することも可能である。1%に設定することのメリットとデメリットについて説明しなさい。

統計的検定における判断の誤りには第1種の誤りと第2種の誤りがある。第1種の誤りとは、本当は実験的処置の効果は存在しないのに、標本抽出誤差(グループ分けしたときの個人差のグループ間での偏りなど)によって実験的処置の効果があると判断する誤りである。有意水準は第1種に誤りの確率に等しい。一方で、本当は実験処置の効果が存在するのに、それを統計的に検出できない誤りを第2種の誤りという。有意水準を5%から1%に設定すると、第1種の誤りを犯す確率を低減することができるが、逆に第2種の誤りを犯す確率が増大する。このため、実験処置の検出可能性や第1種の誤りの危険性を考慮して、研究目的に応じて設定する必要がある。

- (2) ある臨床心理学的処置が状態不安の高さに与える影響を調べるために、20 人の実験参加者に対して、処置を行う前(プレテスト)と 3 ヶ月間の介入を行った後(ポストテスト)に人前でスピーチを行う場面での状態不安の高さを心理尺度を利用して測定した。その結果、プレテストよりもポストテストで状態不安の高さが有意に低下していたことから、この処置は効果があると結論した。この研究の問題点と必要な実験計画の修正について説明しなさい。

この実験計画では、プレテストよりもポストテストにおいて状態不安が低下したとしても、それが臨床心理学的介入によると判断することはできない。例えば、人前でスピーチするのが初めての場合と、同じ場面でスピーチするのが 2 回目であれば、臨床心理学的な介入がなくても慣れによって状態不安が低下したとする解釈が可能だからである。臨床心理学的な処置の効果を評価するためには、比較の対象として、そのような介入を受けない統制群を設ける必要がある。プレテストでは実験群と統制群で状態不安のレベルに差はないが、ポストテストにおける状態不安が統制群よりも実験群で低下したならば、人前でスピーチを行うことに対する単なる慣れでは説明できない臨床心理学的な処置による介入の効果であることが証明できる。(統制群は効果がないことが予想される処置による介入を受けるものでもよい)

- (3) 3 種類の広告A、B、Cの魅力を比較するために、6 名の実験参加者に 0 点から 10 点で評価してもらった。以下がその結果である。広告A、B、Cを 6 名に評価してもらう際にはどのような順序で行う必要があるか、またあなたなら以下のデータにどのような統計的分析を行うか、使用する検定の種類等を挙げて分析の流れについて説明しなさい。実際に計算を行う必要はない。

参加者	広告 A	広告 B	広告 C
1	10	6	6
2	7	4	5
3	6	4	5
4	9	6	7
5	8	5	7
6	8	5	6
平均	8.00	5.00	6.00

広告 A、B、C を評価してもらう順序は 6 名の実験参加者の間で変更する必要がある。仮に全員が最初に広告 A、次に広告 B、最後に広告 C を評価して例のような結果が得られた場合に、最初に見た広告が高く評価され、最後に見た広告が低く評価されるという評価を行う順序が持つ効果と、広告の違いによる効果が判別できなくなる。このような順序の効果を相殺するために、3 条件であれば実施の順序は、ABC、ACB、BAC、BCA、CAB、CBA の 6 パターンであるので、これを 6 名の参加者に実施する。その上で広告 A が最も高く評価されるのであれば、順序の効果ではなく、広告の違いの効果であると判断できる。統計的分析としては、繰り返し測定計画(参加者内計画)の分散分析を実施する。広告の種類の主効果が有意であった場合には、テューキー法等を用いた多重比較を行い、A と B、A と C、

BとCのそれぞれの間に関連な差が認められるかを検討する。

問題3. 以下から2つ選んで答えなさい。

(1) 人の脳の前頭葉、扁桃核、視床について、それぞれの役割を説明しなさい。

前頭葉は推論、論理的思考、行動の制御などをつかさどる。また、運動野が含まれるため、あらゆる体の動きの制御も前頭葉の役割といえる。扁桃核は情動の処理に関わっている。特にネガティブな刺激に対して敏感に活性化する。視床は末梢神経から伝えられる感覚情報を集め、それらの処理を担当する大脳皮質の各部分に送る役割をしている。

(2) 意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶の違いについて説明しなさい。

長期記憶には、意図的に想起して言語化やイメージ化することが可能な宣言的記憶と、非宣言的記憶があり、言語化やイメージ化することが難しい手続き的記憶に分類される。宣言的記憶は、意味記憶とエピソード記憶に分類される。エピソード記憶は思い出の記憶であり、時間的・空間的文脈の中で自己に関する出来事の記憶である。意味記憶は一般的な知識や概念に関する記憶であり、時間的・空間的な感覚を伴わない。手続き的記憶には、楽器の演奏やキーボード入力等を含む運動技能、プライミング記憶、古典的条件づけなどが含まれる。

(3) 比較文化心理学におけるエティックアプローチとエミクアプローチを例を用いながら説明しなさい。

エティックアプローチは心の働きにおける文化普遍的な特徴を見出そうとするアプローチで、エミクアプローチは文化固有的な特徴を見出そうとするアプローチである。例えばアイコンタクトの頻度は文化によって異なるとされ、エミク的アプローチではアイコンタクトの頻度の高い文化や低い文化それぞれでアイコンタクトに関わる固有の心的プロセスを調べようとする。エティックアプローチの場合はアイコンタクトの頻度の違いの背景にある文化共通の心的プロセス(例えば相手に対して失礼のないようにしたいという動機)を見つけることを目的とする。

採点方針: エティックとエミクで別の行動の例を用いてもよい

(4) 機械学習にはどのような種類があるか、また心理学的研究にどのように応用可能か 1 つ以上の例を挙げて説明しなさい。

採点方針: 教師あり学習、教師なし学習、強化学習等を挙げて違いについて簡潔に説明してある。これらのいずれかを用いた心理学関連の研究への妥当な応用例が説明されている。

(5) ヒト以外の動物が抽象的な概念(カテゴリ、数、同異等の関係性等)を持つことを証明するためには、どのような研究が必要であるか。概念の種類(カテゴリ、数、同異等の関係性等)を 1 つ指定して、実験の仮想例を挙げて説明しなさい。

ヒト以外の動物が抽象的な数の概念を持つことを証明するためには、計数の対象となる刺激について、数以外の特徴では弁別できないようにする工夫が必要である。すなわち、ドット刺激を弁別させる場合にすべてのドットが同じ大きさであれば、数の大きな刺激は、ドットの合計面積、ドットが全体として占める領域の大きさなどが必然的に大きくなってしまふ。このような場面で、ドット数の大小を弁別したとしても、ドットの合計面積等の非数的手がかりに基づく学習が行われた可能性が排除できない。このため、ドット大きさ等の特徴を多様に変化させ、数の大きな刺激はドットの合計面積やドットが占める領域の大きさでは説明できないようにする必要がある。さらにこのような弁別が成立した後に、訓練に用いられていない刺激を提示しても正しく反応できるか、という学習の転移を確認する必要がある。抽象的なレベルで数を認識していた場合には、新しい刺激に対しても計数行動の転移が生じると考えられる。(連続変数の統制や学習の転移について触れられていれば序数性の検討例でもよい)

問題4. 以下の用語から 5 つ選んで簡潔に説明しなさい。

(1) 馴化—脱馴化法

乳幼児の認知発達を検討するための実験手法の 1 つである。馴化とは同じ刺激を反復して提示されるとその刺激に対する反応が低下する現象である。乳児の実験では、例えばある同一の女性の顔写

真を反復して提示すると、最初は注視時間が長いですが、次第に低下する。その後、刺激を別の女性の顔写真に変更した際に、注視時間の増加が生じるか検討する方法である。写真の切り替えによって注視時間の増加が生じた場合には、乳幼児が2つの刺激の違いを識別可能であったことの証拠となる。言語による教示や報酬を用いた訓練が不可能な乳幼児の認知能力を検討する上で有効な方法である。

(2) 記憶の系列位置効果

記銘の対象となる項目を1つずつ順番に提示するような記憶実験において、項目が提示された順番、すなわち系列位置によって記憶成績や記憶のされ方が異なる現象。系列の最初の数項目の記憶成績が良くなる現象を初頭性効果、系列の最後の数項目の記憶成績が良くなる現象を新近性効果という。系列提示後に暗算等の妨害課題を与えられると、初頭性効果の成績に対する影響はわずかであるが、新近性効果が大幅に減少する。これらの結果は、系列の最初の数項目が多くのリハーサルを受けるために長期記憶に転送されることから成績が優れるのに対して、系列の最後の項目は回答時に容量に限界のある短期記憶に保持されているために成績が優れることによると解釈される。

(3) 強化スケジュール(オペラント条件づけ)

オペラント条件づけにおいて、反応に対して結果事象(強化子)を提示するルールを強化スケジュールという。代表的なものに、各反応に対して必ず強化子を提示する連続強化スケジュール、一定数の反応毎に強化子を提示する固定率強化(FR)スケジュール、強化子が与えられる反応数に変動する変動比率スケジュール、前の反応から一定時間が経過したのちの反応が強化される固定間隔(FI)スケジュール、強化子の提示条件となる前の反応からの経過時間が変動する変動間隔(VI)スケジュール等がある。

(4) 味覚嫌悪条件づけ

ある味や香りを持つ食物を摂取した後で吐き気などの内蔵不快感を経験すると、その味や香りに対する嫌悪感が獲得され、それらを持つ食物の摂取を避けるようになる現象。ラットで発見されたが、人間を含む多くの動物で確認される。味や香りを条件刺激(CS)、内蔵不快感を無条件刺激(US)とした古典的条件づけに分類されるが、1回の経験で十分な学習が生じることや、CSとUSの間隔が6時間程度という長時間であっても条件づけ強度が低下しないこと、一般的には内蔵不快感は視覚刺激や聴覚刺激には条件づけられにくいという刺激選択性が認められるという特徴がある。

(5) 自己効力(セルフ・エフィカシー)

バンドューラによって体系化された社会的学習理論(Bandura, 1977)に基づけば、人間の行動を決定する要因には先行要因、結果要因、認知的要因があり、特に、人間の行動変容に影響を与える先行要因としての予期機能には結果予期と効力予期がある。結果予期は、ある行動がどのような結果をもたらすかという予期である。効力予期は、ある結果を生み出すために必要な行動をどの程度うまくできるかという予期である。そして、自分がどの程度の効力予期を持っているかを認知したとき、その個人には自己効力があるとされる。人がこれからおこなおうとしている行動に対してどの程度の自己効力を持っているかは、その後の行動の活性化や行動の修正、情緒的な状態と大きく関係している。

(6) IAT(潜在連合テスト)

人の態度や行動には、意識的な部分(顕在的な態度)と無意識な部分(潜在的な態度)の両方が影響を与えている。顕在的な態度は、主に質問紙によって測定されるが、社会的望ましさによって回答の偽りが生じる可能性がある。一方、潜在的な態度を測定する代表的な手法として、IAT(潜在連合テスト)がある。実験参加者はパソコン画面に連続的に提示される刺激語を二つのカテゴリーに分類する試行を繰り返す、その反応時間が対象概念と感情価(ポジティブ、ネガティブ)の連合の強さを表すデータとして測定される。連合が強い場合は反応時間が早く、連合が弱い場合は反応時間が遅くなると考えられている。

(7) 大きさの恒常性

ある物体を見るとき、物体との距離が変化しても、すなわち、その網膜像の大きさが変化しても、その

物体をほぼ一定の大きさに知覚する傾向がある。例えば、遠くから走ってきた車との距離が10mから5mまで近づいてきたとき、網膜に映る車の像は2倍になるが大きさは2倍になったとは知覚されない。同じ物体をどの距離から見ても同じ物体であると認識し、安定した知覚の世界を維持する必要があるためである。大きさの恒常性には物体との距離や奥行きが手がかりとなっていると考えられている。また、このような知覚の恒常性は、大きさだけでなく、明るさ、色、形、位置などに関するものもある。

(8) 根本的な帰属の誤り

他者がある行動をした理由を考えることを帰属という。帰属先は行為者のパーソナリティなどの内的特徴か、行為者が置かれた状況のどちらかである。基本的な帰属の誤りとは、人間が他者の行動を内的特徴に帰属しやすく、その人の置かれた状況がその人の行動に与える影響を小さく見積もることを指す。

(9) 利用可能性ヒューリスティック

何かを推論する際に直観的に素早く解答に行きつく方略がヒューリスティックである。利用可能性ヒューリスティックは、ある事柄が起こる頻度などを推論するときに、想起できる事例の多さを手掛かりにすることである。起こる頻度が少なくてもインパクトが強い事例は想起しやすいため、利用可能性ヒューリスティックを使うと想起しやすい事例が起こる頻度を実際より多く見積もるといふ推論のエラーが起こりやすい。

(10) 脳のブローカ野とウェルニッケ野

ブローカ野は左脳の外側溝前部にあり、言語表出の制御をしている。この部位が損傷すると運動性失語症という流ちょうに話せなくなる言語障害が起こる場合がある。ウェルニッケ野は左脳の外側溝後部にあり、言語理解をつかさどる。この部分が損傷すると流ちょうだが意味が通じない発話をする、他者の発話の意味を理解できないといった障害になる。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(6枚のうち 1枚目)

専攻名	人文学	選抜区分	一般 外国人・社会人
試験科目	心理学		

問題1 次のページから始まる英文を読んで設問に答えなさい。

(1)下線部①を訳しなさい。

(2)下線部②について、複数のドメインに関わるメタ認知を測定するには次の2つのステップが取られる。ステップ1:タスクXについて、それが成功した(正答した)か失敗したか(誤回答した)を判断させる。ステップ2:ステップ1の判断についての自信を答えさせる。なぜステップ1だけでは不十分で、ステップ2を実施しないといけないのか説明しなさい。

(3)下線部③にある metacognitive sensitivity と metacognitive bias を説明しなさい。二つがどのように異なるかが明確になるように説明すること。

(4)Figure 2 では、下の段にある二つのグラフはドメインによる metacognitive sensitivity の違いがきちんと測定できている状態を示しており、上の段の二つはそれがきちんと測定できていない状態を示している。なぜ上の段のグラフではドメインによる metacognitive sensitivity の違いがきちんと測定できていないことになるのか説明しなさい。

引用元

Rouault M, McWilliams A, Allen MG, Fleming SM. (2018). Human metacognition across domains: Insights from individual differences and neuroimaging. *Personality Neuroscience*, 1, e17. 1頁本文27行目から-3頁3行目(行数にはアブストラクトを含む)

(6 枚のうち 2 枚目)

(6 枚のうち 3 枚目)

(6 枚のうち 4 枚目)

問題2. 以下の3問全てにそれぞれ回答しなさい

- (1)有意水準(α)は通常は 5%に設定されているが、1%に設定することも可能である。1%に設定することのメリットとデメリットについて説明しなさい。
- (2)ある臨床心理学的処置が状態不安の高さに与える影響を調べるために、20 人の実験参加者に対して、処置を行う前(プレテスト)と 3 ヶ月間の介入を行った後(ポストテスト)に人前でスピーチを行う場面での状態不安の高さを心理尺度を利用して測定した。その結果、プレテストよりもポストテストで状態不安の高さが有意に低下していたことから、この処置は効果があると結論した。この研究の問題点と必要な実験計画の修正について説明しなさい。
- (3)3 種類の広告A, B, Cの魅力を比較するために、6 名の実験参加者に 0 点から 10 点で評価してもらった。以下がその結果である。広告A, B, Cを 6 名に評価してもらう際にはどのような順序で行う必要があるか、またあなたなら以下のデータにどのような統計的分析を行うか、使用する検定の種類等を挙げて分析の流れについて説明しなさい。実際に計算を行う必要はない。

参加者	広告 A	広告 B	広告 C
1	10	6	6
2	7	4	5
3	6	4	5
4	9	6	7
5	8	5	7
6	8	5	6
平均	8.00	5.00	6.00

(6 枚のうち 6 枚目)

問題3. 以下から2つ選んで答えなさい。

- (1)人の脳の前頭葉, 扁桃体, 視床について, それぞれの役割を説明しなさい。
- (2)意味記憶, エピソード記憶, 手続き記憶の違いについて説明しなさい。
- (3)比較文化心理学におけるエティックアプローチとエミックアプローチを, 例を用いながら説明しなさい。
- (4)機械学習にはどのような種類があるか, また心理学的研究にどのように応用可能か 1 つ以上の例を挙げて説明しなさい。
- (5)ヒト以外の動物が抽象的な概念(カテゴリ, 数, 同異等の関係性等)を持つことを証明するためには, どのような研究が必要であるか。概念の種類(カテゴリ, 数, 同異等の関係性等)を 1 つ指定して, 実験の仮想例を挙げて説明しなさい。

問題4. 以下の用語から 5 つ選んで簡潔に説明しなさい。

- (1)馴化－脱馴化法
- (2)記憶の系列位置効果
- (3)強化スケジュール(オペラント条件づけ)
- (4)味覚嫌悪条件づけ
- (5)自己効力(セルフ・エフィカシー)
- (6)IAT(潜在連合テスト)
- (7)大きさの恒常性
- (8)根本的な帰属の誤り
- (9)利用可能性ヒューリスティック
- (10)脳のブローカ野とウェルニッケ野

専攻名 人文学 選抜区分 一般

科目名 心理学

解答例又は出題意図

問題1 次のページから始まる英文を読んで設問に答えなさい。

(1) 下線部①を訳しなさい。

メタ認知は、認知に関する認知と定義される。他の認知プロセスについてよく考えたり、それらのプロセスを監視したり制御したりする能力である。以下で詳しく説明するが、実験室ではメタ認知を調べるために、個人があるタスクにおける自分のパフォーマンスに対して下す判断を記録する。例えばある決断についての自信であるとか、学習が成功したかどうかの判断などである(二次的判断)。

(2) 下線部②について、複数のドメインに関わるメタ認知を測定するには次の2つのステップが取られる。ステップ1:タスク X について、それが成功した(正答した)か失敗したか(誤回答した)を判断させる。ステップ2:ステップ1の判断についての自信を答えさせる。なぜステップ1だけでは不十分で、ステップ2を実施しないとイケないのか説明しなさい。

ステップ1の判断はそれぞれのタスクドメインの特徴に依存するため、それらを複数のドメインで比較するのは適切ではないから。

(3) 下線部③にある metacognitive sensitivity と metacognitive bias を説明しなさい。二つがどのように異なるかが明確になるように説明すること。

Metacognitive sensitivity は正しい判断と誤った判断を区別できるかどうかで、metacognitive bias は全体的な自信のレベルの高低のことである。例えば自分の判断について全体的に自信がない人でも、正しい判断についての自信と誤った判断についての自信がきちんと区別可能な場合があり得る。

(4) Figure 2 では、下の段にある二つのグラフはドメインによる metacognitive sensitivity の違いがきちんと測定できている状態を示しており、上の段の二つはそれがきちんと測定できていない状態を示している。なぜ上の段のグラフではドメインによる metacognitive sensitivity の違いがきちんと測定できていないことになるのか説明しなさい。

Metacognitive sensitivity は簡単なタスクで高くなりやすいため、比較しようとする複数のタスクの間でパフォーマンスのレベルに違いがあると、タスクによって metacognitive sensitivity が違うとは言えない。ドメインによる metacognitive sensitivity の違いをきちんと測定するためにはタスク間のパフォーマンスレベルを統一する必要がある。

引用元

Rouault M, McWilliams A, Allen MG, Fleming SM. (2018). Human metacognition across domains: Insights from individual differences and neuroimaging. *Personality Neuroscience*, 1, e17. 1 頁本文 27 行目から-3 頁 3 行目 (行数にはアブストラクトを含む)

問題2. 以下の3問全てにそれぞれ回答しなさい

- (1) 有意水準 (α) は通常は 5% に設定されているが、1% に設定することも可能である。1% に設定することのメリットとデメリットについて説明しなさい。

統計的検定における判断の誤りには第1種の誤りと第2種の誤りがある。第1種の誤りとは、本当は実験的処置の効果は存在しないのに、標本抽出誤差(グループ分けしたときの個人差のグループ間での偏りなど)によって実験的処置の効果があると判断する誤りである。有意水準は第1種に誤りの確率に等しい。一方で、本当は実験的処置の効果が存在するのに、それを統計的に検出できない誤りを第2種の誤りという。有意水準を5%から1%に設定すると、第1種の誤りを犯す確率を低減することができるが、逆に第2種の誤りを犯す確率が増大する。このため、実験的処置の検出可能性や第1種の誤りの危険性を考慮して、研究目的に応じて設定する必要がある。

- (2) ある臨床心理学的処置が状態不安の高さに与える影響を調べるために、20人の実験参加者に対して、処置を行う前(プレテスト)と3ヶ月間の介入を行った後(ポストテスト)に人前でスピーチを行う場面での状態不安の高さを心理尺度を利用して測定した。その結果、プレテストよりもポストテストで状態不安の高さが有意に低下していたことから、この処置は効果があると結論した。この研究の問題点と必要な実験計画の修正について説明しなさい。

この実験計画では、プレテストよりもポストテストにおいて状態不安が低下したとしても、それが臨床心理学的介入によると判断することはできない。例えば、人前でスピーチするのが初めての場合と、同じ場面でスピーチするのが2回目であれば、臨床心理学的な介入がなくても慣れによって状態不安が低下したとする解釈が可能だからである。臨床心理学的な処置の効果を評価するためには、比較の対象として、そのような介入を受けない統制群を設ける必要がある。プレテストでは実験群と統制群で状態不安のレベルに差はないが、ポストテストにおける状態不安が統制群よりも実験群で低下したならば、人前でスピーチを行うことに対する単なる慣れでは説明できない臨床心理学的な処置による介入の効果であることが証明できる。(統制群は効果がないことが予想される処置による介入を受けるものでもよい)

- (3) 3種類の広告A、B、Cの魅力を比較するために、6名の実験参加者に0点から10点で評価してもらった。以下がその結果である。広告A、B、Cを6名に評価してもらう際にはどのような順序で行う必要があるか、またあなたなら以下のデータにどのような統計的分析を行うか、使用する検定の種類等を挙げて分析の流れについて説明しなさい。実際に計算を行う必要はない。

参加者	広告A	広告B	広告C
1	10	6	6
2	7	4	5
3	6	4	5
4	9	6	7
5	8	5	7
6	8	5	6
平均	8.00	5.00	6.00

広告A、B、Cを評価してもらう順序は6名の実験参加者の間で変更する必要がある。仮に全員が最初に広告A、次に広告B、最後に広告Cを評価して例のような結果が得られた場合に、最初に見た広告が高く評価され、最後に見た広告が低く評価されるという評価を行う順序が持つ効果と、広告の違いによる効果が判別できなくなる。このような順序の効果を相殺するために、3条件であれば実施の順序は、ABC、ACB、BAC、BCA、CAB、CBAの6パターンであるので、これを6名の参加者に実施する。その上で広告Aが最も高く評価されるのであれば、順序の効果ではなく、広告の違いの効果であると判断できる。統計的分析としては、繰り返し測定計画(参加者内計画)の分散分析を実施する。広告の種類の主効果が有意であった場合には、テューキー法等を用いた多重比較を行い、AとB、AとC、

BとCのそれぞれの間には有意な差が認められるかを検討する。

問題3. 以下から2つ選んで答えなさい。

(1) 人の脳の前頭葉、扁桃体、視床について、それぞれの役割を説明しなさい。

前頭葉は推論、論理的思考、行動の制御などをつかさどる。また、運動野が含まれるため、あらゆる体の動きの制御も前頭葉の役割といえる。扁桃体は情動の処理に関わっている。特にネガティブな刺激に対して敏感に活性化する。視床は末梢神経から伝えられる感覚情報を集め、それらの処理を担当する大脳皮質の各部分に送る役割をしている。

(2) 意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶の違いについて説明しなさい。

長期記憶には、意図的に想起して言語化やイメージ化することが可能な宣言的記憶と、非宣言的記憶があり、言語化やイメージ化することが難しい手続き的記憶に分類される。宣言的記憶は、意味記憶とエピソード記憶に分類される。エピソード記憶は思い出の記憶であり、時間的・空間的文脈の中で自己に関する出来事の記憶である。意味記憶は一般的な知識や概念に関する記憶であり、時間的・空間的な感覚を伴わない。手続き的記憶には、楽器の演奏やキーボード入力等を含む運動技能、プライミング記憶、古典的条件づけなどが含まれる。

(3) 比較文化心理学におけるエティックアプローチとエミックアプローチを例を用いながら説明しなさい。

エティックアプローチは心の働きにおける文化普遍的な特徴を見出そうとするアプローチで、エミックアプローチは文化固有的な特徴を見出そうとするアプローチである。例えばアイコンタクトの頻度は文化によって異なるとされ、エミック的アプローチではアイコンタクトの頻度の高い文化や低い文化それぞれでアイコンタクトに関わる固有の心的プロセスを調べようとする。エティックアプローチの場合はアイコンタクトの頻度の違いの背景にある文化共通の心的プロセス(例えば相手に対して失礼のないようにしたいという動機)を見つけることを目的とする。

採点方針: エティックとエミックで別の行動の例を用いてもよい

(4) 機械学習にはどのような種類があるか、また心理学的研究にどのように応用可能か 1 つ以上の例を挙げて説明しなさい。

採点方針: 教師あり学習、教師なし学習、強化学習等を挙げて違いについて簡潔に説明してある。これらのいずれかを用いた心理学関連の研究への妥当な応用例が説明されている。

(5) ヒト以外の動物が抽象的な概念(カテゴリ、数、同異等の関係性等)を持つことを証明するためには、どのような研究が必要であるか。概念の種類(カテゴリ、数、同異等の関係性等)を 1 つ指定して、実験の仮想例を挙げて説明しなさい。

ヒト以外の動物が抽象的な数の概念を持つことを証明するためには、計数の対象となる刺激について、数以外の特徴では弁別できないようにする工夫が必要である。すなわち、ドット刺激を弁別させる場合にすべてのドットが同じ大きさであれば、数の大きな刺激は、ドットの合計面積、ドットが全体として占める領域の大きさなどが必然的に大きくなってしまふ。このような場面で、ドット数の大小を弁別したとしても、ドットの合計面積等の非数的手がかりに基づく学習が行われた可能性が排除できない。このため、ドット大きさ等の特徴を多様に変化させ、数の大きな刺激はドットの合計面積やドットが占める領域の大きさでは説明できないようにする必要がある。さらにこのような弁別が成立した後に、訓練に用いられていない刺激を提示しても正しく反応できるか、という学習の転移を確認する必要がある。抽象的なレベルで数を認識していた場合には、新しい刺激に対しても計数行動の転移が生じると考えられる。(連続変数の統制や学習の転移について触れられていれば序数性の検討例でもよい)

問題4. 以下の用語から 5 つ選んで簡潔に説明しなさい。

(1) 馴化—脱馴化法

乳幼児の認知発達を検討するための実験手法の 1 つである。馴化とは同じ刺激を反復して提示されるとその刺激に対する反応が低下する現象である。乳児の実験では、例えばある同一の女性の顔写

真を反復して提示すると、最初は注視時間が長いですが、次第に低下する。その後、刺激を別の女性の顔写真に変更した際に、注視時間の増加が生じるか検討する方法である。写真の切り替えによって注視時間の増加が生じた場合には、乳幼児が2つの刺激の違いを識別可能であったことの証拠となる。言語による教示や報酬を用いた訓練が不可能な乳幼児の認知能力を検討する上で有効な方法である。

(2) 記憶の系列位置効果

記銘の対象となる項目を1つずつ順番に提示するような記憶実験において、項目が提示された順番、すなわち系列位置によって記憶成績や記憶のされ方が異なる現象。系列の最初の数項目の記憶成績が良くなる現象を初頭性効果、系列の最後の数項目の記憶成績が良くなる現象を新近性効果という。系列提示後に暗算等の妨害課題を与えられると、初頭性効果の成績に対する影響はわずかであるが、新近性効果が大幅に減少する。これらの結果は、系列の最初の数項目が多くのリハーサルを受けるために長期記憶に転送されることから成績が優れるのに対して、系列の最後の項目は回答時に容量に限界のある短期記憶に保持されているために成績が優れることによると解釈される。

(3) 強化スケジュール(オペラント条件づけ)

オペラント条件づけにおいて、反応に対して結果事象(強化子)を提示するルールを強化スケジュールという。代表的なものに、各反応に対して必ず強化子を提示する連続強化スケジュール、一定数の反応毎に強化子を提示する固定率強化(FR)スケジュール、強化子が与えられる反応数に変動する変動比率スケジュール、前の反応から一定時間が経過したのちの反応が強化される固定間隔(FI)スケジュール、強化子の提示条件となる前の反応からの経過時間が変動する変動間隔(VI)スケジュール等がある。

(4) 味覚嫌悪条件づけ

ある味や香りを持つ食物を摂取した後で吐き気などの内蔵不快感を経験すると、その味や香りに対する嫌悪感が獲得され、それらを持つ食物の摂取を避けるようになる現象。ラットで発見されたが、人間を含む多くの動物で確認される。味や香りを条件刺激(CS)、内蔵不快感を無条件刺激(US)とした古典的条件づけに分類されるが、1回の経験で十分な学習が生じることや、CSとUSの間隔が6時間程度という長時間であっても条件づけ強度が低下しないこと、一般的には内蔵不快感は視覚刺激や聴覚刺激には条件づけられにくいという刺激選択性が認められるという特徴がある。

(5) 自己効力(セルフ・エフィカシー)

バンドューラによって体系化された社会的学習理論(Bandura, 1977)に基づけば、人間の行動を決定する要因には先行要因、結果要因、認知的要因があり、特に、人間の行動変容に影響を与える先行要因としての予期機能には結果予期と効力予期がある。結果予期は、ある行動がどのような結果をもたらすかという予期である。効力予期は、ある結果を生み出すために必要な行動をどの程度うまくできるかという予期である。そして、自分がどの程度の効力予期を持っているかを認知したとき、その個人には自己効力があるとされる。人がこれからおこなおうとしている行動に対してどの程度の自己効力を持っているかは、その後の行動の活性化や行動の修正、情緒的な状態と大きく関係している。

(6) IAT(潜在連合テスト)

人の態度や行動には、意識的な部分(顕在的な態度)と無意識な部分(潜在的な態度)の両方が影響を与えている。顕在的な態度は、主に質問紙によって測定されるが、社会的望ましさによって回答の偽りが生じる可能性がある。一方、潜在的な態度を測定する代表的な手法として、IAT(潜在連合テスト)がある。実験参加者はパソコン画面に連続的に提示される刺激語を二つのカテゴリーに分類する試行を繰り返す、その反応時間が対象概念と感情価(ポジティブ、ネガティブ)の連合の強さを表すデータとして測定される。連合が強い場合は反応時間が早く、連合が弱い場合は反応時間が遅くなると考えられている。

(7) 大きさの恒常性

ある物体を見るとき、物体との距離が変化しても、すなわち、その網膜像の大きさが変化しても、その

物体をほぼ一定の大きさに知覚する傾向がある。例えば、遠くから走ってきた車との距離が10mから5mまで近づいてきたとき、網膜に映る車の像は2倍になるが大きさは2倍になったとは知覚されない。同じ物体をどの距離から見ても同じ物体であると認識し、安定した知覚の世界を維持する必要があるためである。大きさの恒常性には物体との距離や奥行きが手がかりとなっていると考えられている。また、このような知覚の恒常性は、大きさだけでなく、明るさ、色、形、位置などに関するものもある。

(8) 根本的な帰属の誤り

他者がある行動をした理由を考えることを帰属という。帰属先は行為者のパーソナリティなどの内的特徴か、行為者が置かれた状況のどちらかである。基本的な帰属の誤りとは、人間が他者の行動を内的特徴に帰属しやすく、その人の置かれた状況がその人の行動に与える影響を小さく見積もることを指す。

(9) 利用可能性ヒューリスティック

何かを推論する際に直観的に素早く解答に行きつく方略がヒューリスティックである。利用可能性ヒューリスティックは、ある事柄が起こる頻度などを推論するときに、想起できる事例の多さを手掛かりにすることである。起こる頻度が少なくてもインパクトが強い事例は想起しやすいため、利用可能性ヒューリスティックを使うと想起しやすい事例が起こる頻度を実際より多く見積もるといふ推論のエラーが起こりやすい。

(10) 脳のブローカ野とウェルニッケ野

ブローカ野は左脳の外側溝前部にあり、言語表出の制御をしている。この部位が損傷すると運動性失語症という流ちょうに話せなくなる言語障害が起こる場合がある。ウェルニッケ野は左脳の外側溝後部にあり、言語理解をつかさどる。この部分が損傷すると流ちょうだが意味が通じない発話をする、他者の発話の意味を理解できないといった障害になる。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
第1期募集 入学試験問題

(3枚のうち 1枚目)

専攻名	人文学	選抜区分	<input type="checkbox"/> 一般・外国人・社会人
試験科目	西洋史学		

問題1 次の2つの英文を全訳しなさい。

(A)

出典: Rzeźnicka, Zofia; Kokoszko, Maciej, *Milk and Dairy Products in the Medicine and Culinary Art of Antiquity and Early Byzantium (1st-7th Centuries AD)*, Jagiellonian University Press, 2021, p.39, l. 1-17.

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(3枚のうち 2枚目)

専攻名	人文学	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	西洋史学		

(B)

出典: Norman F. Cantor, *Inventing the Middle Ages*, HARPER PERENNIAL, 1991,
p.154, l.22 - p.155, l.8.

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(3枚のうち 3枚目)

専攻名	人文学	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	西洋史学		

問題2

近代以降のヨーロッパにおける「福祉国家」の成立と展開について、複数の国における事例を比較しながら論じなさい。

問題3 以下の語句の中から8つを選択して、説明しなさい。

- ① 「3世紀の危機」 Crisis of the Third Century
- ② ロゼッタ・ストーン Rosetta Stone
- ③ 『70人訳聖書』 Septuaginta
- ④ 同盟部族 foederati
- ⑤ アンリ・ピレンヌ Henri Pirenne
- ⑥ 帝国教会 Reichskirche
- ⑦ タイユ taille
- ⑧ ヘルヴェティア共和国 République Helvétique
- ⑨ 聖職者民事基本法 Constitution civile du clergé
- ⑩ フリードリヒ・エンゲルス Friedrich Engels
- ⑪ アンシュルス Anschluss
- ⑫ 封じ込め Containment

2025年度大学院入試（博士前期課程・西洋史）出題意図と解答例

問題1

(A) 出題意図・要約

[出題意図]

近年、西洋史の分野でも関心を高めている食文化史に関係する文献からの出題である。ここでは、古代地中海世界における乳製品の利用と当時の医者や学者たちの言説が取り上げられている。英文は比較的平易であり、辞書がなくとも大意を把握するのはさほど難度はないものと思われる。解答者が、文章の内容を正しく理解し、それに即した翻訳ができるかどうかを確認するための作問である。

[要約] ミルクを提供する動物としてリストアップされるのは、ロバ、羊、牛である。ロバは駄獣としても使われていたので、大きく重い荷物を運ぶことによって課される肉体的疲労にもとづく疲労のせいで、ごく少量のミルクしか出すことができず、そうした理由から、ロバのミルクは主に特別な治療のために用いられていた。それに加えてロバのミルクは栄養学者には高く評価されていなかった。例えば、1世紀以上後のガレノスは、それは水っぽくて脂肪をほとんど含んでおらず、そうした特徴は、その栄養学上の価値は実質的に皆無であると記述している。しかしながら、羊や牛のミルクについてはそうしたことは少しも当てはまらず、食料として高く評価されていた。ガレノスの見解は、彼が生きた時代のミルク消費者の嗜好性、ひいては市場におけるそうした製品の入手しやすさに関連しているのであろうと推測することができる。もしもそれが正しければ、羊や牛から得られるミルクは、ロバのそれよりも明らかに人気があったのだろう。しかしながら、このペルガモン出身の医者によって提示された家計上のパターンがケルソスによって表示されたそれと著しく異なっていたことを証明する証拠はない。

2025 年度 1 期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学 選抜区分 一般

科目名 西洋史学

解答例又は出題意図

問題 1(B)

【出題意図】

アナル学派による中世史研究の意義を考察した論考の一部分。エマニュエル・ル・ロワ・ラデュリーの『モンタイユ』は戦後アナル学派の中世史研究のベストセラーであり、日本語にも翻訳された。本論考の著者は、ル・ロワ・ラデュリーが同時代の研究者の誰も見向きもしなかった 14 世紀フランス南西部の山岳部の農民への異端審問の記録を題材に、彼らの宗教心性、さらに性的不品行の数々をも炙り出すことにより、農民の日常の関心事を巧みに提示した慧眼を指摘する。史料の取り扱い方如何で、面白い「歴史」を描き出せる可能性をわれわれに教えてくれる好例である。受験者がその妙味を理解しうるかを問う。

【解答例】

封建制が教会のイデオロギーに起源をもつというのは古い考えである。カラズマーであのような称賛を引き起こしたのは、その考え方ではなく、デュビーがそれを提示した方法であったろう。同様に、戦後のアナル学派の中世研究のなかで一番のベストセラーになった本についてまとめよう。1970 年代初頭のル・ロワ・ラデュリーの本『モンタイユ』は、フランスでも合衆国での英訳でも大ヒットとなり、合衆国ではペーパーバック版でよく売れ続けている。1920 年代以降、ローマのヴァチカン図書館では、14 世紀初頭のフランス南西部の山岳部の町で 1 人の司教（後に教皇になり、それゆえローマにある）によって作成された長い異端審問記録があることが知られていた。この異端審問記録が魅力的だったのは、僻地のカタリ派異端の告白であるのみならず、性的不品行に関する一連の記録でもあったからだ。山岳部の農民は嚴罰（火刑を含む）を避けるために告白するようにとの圧力の下にあったため、彼らは宗教的・性的不品行について、司教が聴きたかったことをしゃべり続け、彼らは赦免されたのだった。研究者たちはこの記録を何度も目にしたが、それが墮落した史料だという理由で、誰も何もしなかった。このことはル・ロワ・ラデュリーを停止させなかった。彼はそれを、まるでそれが、訪ねてきた社会学者に自分の血縁関係について語る地元の情報提供者の人類学的フィールドワークの記録であるかのように扱った。その結果が決定的に魅力的な本となったのである。方法論的には欠陥はあったが、誰がそれに注意を向けただろうか？ほんの数人の時代遅れの非アナル学派の中世史研究者だけだろう。ル・ロワ・ラデュリーは、農民の生活が 14 世紀以来何も変わっていなかったという印象を伝えるために巧みに物語を提示したのだ。どの農民も関心を抱いていたのは、食卓とベッドの喜びだけだったのだ。

問題2 近代以降のヨーロッパにおける「福祉国家」の成立と展開について、複数の国における事例を比較しながら論じなさい。

【出題意図】

今回の出題は、近代以降のヨーロッパ各国政治において、国家による統治のあり方がいかなる変遷を遂げてきたのか、受験者が研究対象としたい国・地域・時代のみならず、それ以外の国や地域、時代における事例を挙げて論じることを求めている。これにより、西洋近現代史に関する幅広い素養を有しているかを問うとともに、複数の国・時代における事例を「比較」する能力を測ることが、本出題の主なねらいである。

ここでの「比較」には、複数の国における事例、その経緯や背景をただ羅列するにとどまらず、それらの類似点・相違点を挙げると同時に、そのような類似性や差異が生じた事由を考察し、論理的に記述することを期待する、という意味がある。

また、福祉国家は20世紀に確立されたというのが一般的な理解であるが、近代以降のヨーロッパ史を専攻する者であれば、そのような現代的な政治・社会的事象についても、考察し論述する能力を有している必要があるだろう。

具体的な解答の内容は様々に考えられるが、近代ヨーロッパにおける福祉国家の事例として、まずイギリスのものを挙げるができるだろう。イギリスにおける、国家による福祉の実践は、16世紀、ヘンリー8世統治下のイギリスにおける救貧法にその嚆矢を見出すことができる。また、1601年のエリザベス救貧法、18世紀前半の救貧院制度なども、その例と言える。しかし、産業革命の進展に伴い、貧民層が拡大したことが一因となり、ギルバート法の制定とそれに基づくスピーナムランド制度が開始されたが、失敗に終わった。そこで、1834年の新救貧法により、各教区に委ねられていた貧民救済を全国的に統一し、救貧政策を中央集権化する動きが進んだ。20世紀になると、自由党政権のもとで、年金や失業補償、国民保険システムが導入された。

他の国における事例としては、1848年の二月革命後、フランスで失業対策の一環として設立された国立作業場、また、アメリカにおいて、1929年以降拡大した世界恐慌に対し、大統領ローズヴェルトが実施したニューディール政策など、様々なものを挙げるができる。

また、第二次世界大戦後には、各国で社会保障制度がいつそうの発展を見せた。例えばイギリスでは、ベヴァリッジ報告書に基づき、アトリー労働党政権下で健康保険や失業給付等の拡充が進んだ。このような政策はしばしば「ゆりかごから墓場まで」という言葉で表現される。しかし、サッチャー保守党政権期には、社会保障政策が一定程度継続された一方で、公共事業の民営化などの経済政策の転換により、不況の長期化と失業者の増加を招いた。

他国では、例えばスウェーデンにおいて、20世紀前半より「国民の家」という概念が提唱された。伝統的な階級間の分断を取り払い、すべての人が平等に扱われる社会を理想像とするものである。これに基づき、国民が負担する高額な税を主たる財源として、国民に高度な福祉サービスが提供されている。

上記の内容は、近現代ヨーロッパにおける福祉国家の事例のうちのごく一部である。受験者自身が多様な事例を挙げながら、それらをどのように「比較」しているか、また論理的に記述しているか、を評価の対象とする。

問題3 ①～④ 問題・解答例

① 「3世紀の危機」 Crisis of the Third Century

② ロゼッタ・ストーン Rosetta Stone

③ 『70人訳聖書』 Septuaginta

④ 同盟部族 foederati

① 政治、軍事、経済、宗教などあらゆる分野で危機的状況に陥った3世紀のローマ帝国の様相を示す時代呼称。いわゆる「軍人皇帝の時代」と同義だが、「軍人皇帝の時代」が当時の政治情勢に着目した名称であることに対して、「3世紀の危機」は当時の社会が全般的な危機に襲われたことを強調する用語になっている。

② 1799年、エジプト遠征中のナポレオン軍によってナイル川デルタのロゼッタで発見された石版。現在は大英博物館の収蔵されている。ヒエログリフ（神聖文字）、デモティック（民衆文字）、ギリシア語の3書体で同一の内容が記されており、これに基づいてシャンポリオンはヒエログリフの解読に成功することになった。

③ 前3世紀から紀元前後にかけてエジプトのアレクサンドリアで成立した『旧約聖書』のギリシア語訳。伝承によれば、プトレマイオス朝の第2代国王プトレマイオス2世の要請で、ユダヤ人の長老72人がアレクサンドリアに派遣され、72日間で訳文が仕上げられたという。

④ ローマと同盟を結んだ部族。ローマは帝国外の諸部族としばしば同盟協定を締結し、平時においては後者に金品を提供して懐柔する一方、有事においては、後者はローマ側に武力を提供することが義務づけられていた。テオドシウス1世以降、ゲルマン系諸民族などが同盟部族として帝国内に定住することを承認されるようになると、彼らは実質的な国家ない国家を形成し、ローマ帝国の存立を脅かす存在となった。

- ⑤ アンリ・ピレンヌ Henri Pirenne
- ⑥ 帝国教会 Reichskirche
- ⑦ タイユ taille
- ⑧ ヘルヴェティア共和国 République Helvétique

⑤

ベルギーの中世史家。社会経済史の観点から、古代から中世への転換点が 5 世紀末の西ローマ帝国の滅亡にあるのではなく、8 世紀にイスラム勢力が地中海を制覇した時点にあること、11 世紀の「商業の復活」により中世都市が成立・興隆したことを提唱して歴史学界に大きな影響を与えた。後世、ピレンヌ・テーゼ批判がさらに都市・農村関係論を発展させた。

⑥

ザクセン朝、ザリアー朝の帝国政治秩序に組み込まれ、皇帝(ドイツ王=ローマ王)の権威のもとに置かれた司教座教会、修道院などを指す。オットー1 世以降、皇帝はそれらに所領、特権を与えて大領主化させ、教会法上はローマ教皇に属する帝国直属教会の聖職者を国王官僚化した。皇帝は聖職者の任免権を掌握し、教皇を統御すべくイタリア政策をおこなった。この帝国教会政策はクリュニー修道院運動を契機にヴォルムス協約によって破棄されるまで続いた。

⑦

前近代フランスにおける賦課。領主制タイユは 11 世紀からシャテルニーなどの領主制及びその支配圏の形成にともなって発展し、住民に一円的に課された。14 世紀末以降、国王の直接税もタイユと呼ばれるようになり、アンシャン・レジーム期にはこれが最も重要な直接税となった。

⑧

1798~1803 年。ナポレオンの影響下で起きたスイス革命によってスイスに形成された共和国体制。邦(カントン)の連合体であった旧体制を廃止し、フランス総裁政府の政治体制を導入したが、スイスの伝統的政治体制である地域同盟体制になじまず、崩壊した。

問題3 解答例

⑨ 聖職者民事基本法 *Constitution civile du clergé*

フランス革命期の1790年、憲法制定国民議会により制定された、フランスの教会を国家の管理下に置くことを定めた法律。この法律により、選挙による聖職者の任命、聖職者に対する憲法および聖職者民事基本法の遵守の義務化などが規定された。この法律に対し、ローマ教皇は強く反発した。また、フランス国内の聖職者は、法律を遵守する者とそうでない者に二分され、教会内部で対立が生じた。

⑩ フリードリヒ・エンゲルス *Friedrich Engels*

19世紀半ばに活動した、プロイセンの社会思想家。1848年、カール・マルクスと共同で『共産党宣言』を発表し、科学的社会主義（マルクス主義）の礎を築いた。また、1864年に創設された第一インターナショナルへの参加、1867年の『資本論』の発表などにより、ヨーロッパ各国の労働運動の発展、労働者と社会主義者の連帯のために活動した。

⑪ アンシュルス *Anschluss*

1938年のドイツによるオーストリア併合（独逸合邦）を指す。1848年のドイツ三月革命を発端に、「大ドイツ主義」のもとにアンシュルス運動が興隆するが、1919年のパリ講和条約は、ドイツとオーストリアの併合を明文で禁止した。しかし、1931年の独逸関税同盟計画以降、外交政策として再び議論に上り、ナチス政権下のドイツにより、オーストリアはドイツの州の一つとして併合された。

⑫ 封じ込め *Containment*

冷戦期のアメリカによる、共産主義の拡大を阻止する目的で実施された政策を指す。第二次世界大戦直後、外交官ジョージ・ケナンにより使用された語が、その由来とされている。1947年のトルーマン・ドクトリンにおいて宣言され、同年に発表された欧州復興計画（マーシャル・プラン）において本格的に始動された。その後、NATO設立などを通じてこのような動きが強まり、米ソ対立が深化した。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

2025, Kanazawa University, Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies, Examination Question

(3 枚のうち 1 枚目)

専攻名 Division	人文 Humanities	選抜区分 Selection	外国人特別選抜 (International)
試験科目 Subject	考古学 Archaeology		

問題 1

(1)、(2)の設問に答えよ。

Question 1

Answer questions (1) and (2).

(1)大学院において自身が研究する課題を解決するために有効となり得る考古学および考古科学の手法について説明し、さらに具体的にどのようなアドバンテージがあるか、600 単語以内で説明しなさい。

Explain within 600 words the content and advantages of archaeology and archaeological science methods that could be used to solve your research questions in graduate school.

(2)次の用語の中から5つ選び、それぞれ200単語以上で簡潔に説明しなさい。

Choose five of the following terms and briefly describe them in at least 200 words.

1. Paleogenomics
2. Post-processual archaeology
3. Liangzhu culture
4. Ahmariian toolkit
5. XRF
6. Jomon pottery
7. BMAC
8. Strontium isotope analysis
9. Lapita culture
10. Public Archaeology

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

2025, Kanazawa University, Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies, Examination Question

(3 枚のうち 2 枚目)

専攻名 Division	人文 Humanities	選抜区分 Selection	外国人特別選抜 (International)
試験科目 Subject	考古学 Archaeology		

問題 2

以下の文章を読み、(1)、(2)の設問に答えよ。

Question 2

Read the following passage and answer questions (1) and (2).

(Kristian Kristiansen, *Archaeology: the key concepts*, London & New York, Routledge, *Colin Renfrew & Paul Bahn (edt.)*, p, 57, l. 15-38, (2005))

(1) 下線部の"package"を分析することの重要性を、その具体例を挙げて説明しなさい。

Explain the importance of analyzing the underlined "package" with examples.

(2) 本文の大意を説明したのちに、あなたが修士課程で取り組む研究課題にどの様にいかせるか 400 単語以上で説明せよ。

Explain the essential point of the text and how it can be applied to your research subject in your master course in at least 400 words.

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

2025, Kanazawa University, Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies, Examination Question

(3 枚のうち 3 枚目)

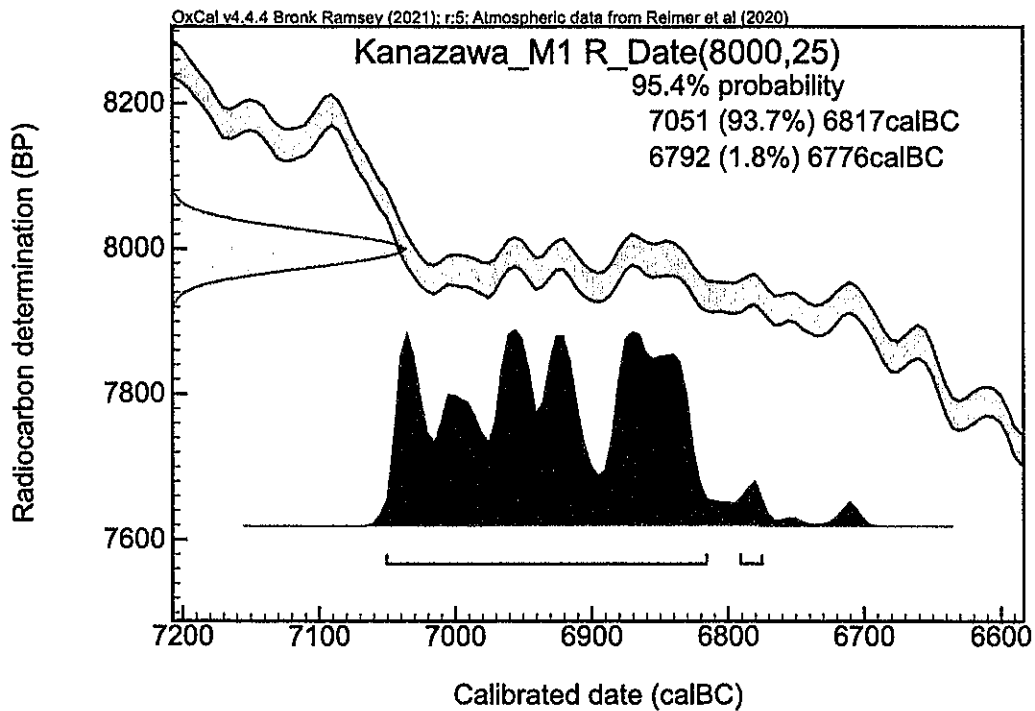
専攻名 Division	人文 Humanities	選抜区分 Selection	外国人特別選抜 (International)
試験科目 Subject	考古学 Archaeology		

問題 3

以下の文章を読み、(1)、(2)の設問に答えよ。

Question 3

See the following figure and answer questions (1) and (2).



(1) 図は何という分析結果を示したものか、分析名を記しなさい。

What kind of analysis technique does the figure show the results of? Answer the name of the analysis.

(2) 図の結果について 400 単語以上で簡潔に説明しなさい。

Explain the figure in at least 400 words.

2025年度1期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学

選抜区分 外国人特別選抜

科目名 考古学

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題1

考古学における基本的な知識の理解度をはかる。

Question 1

To test the level of understanding of basic knowledge in archaeology.

(1) 考古学における研究で用いられている多様な研究手法について理解しているかをはかる。また、その手法を自分の研究課題へ適切に応用し、議論が展開できるかを問う。

To test understanding of the various research methods used in archaeological research. It also tests whether they can appropriately apply these methods to their own research questions and develop their discussions.

(2) 考古学および考古科学における基礎的な専門用語について、正確かつ十分に説明ができるか、基本的知識を問う。

To test knowledge of basic terminology in archaeology and archaeological science, including the ability to explain accurately and adequately basic terminology.

1. Paleogenomics

Paleogenomics is the study of ancient genomes, combining paleontology and genomics to understand extinct species' genetic makeup, evolutionary relationships, and adaptations. By extracting and analyzing ancient DNA (aDNA) from fossils, bones, teeth, and other preserved materials, paleogenomic researchers reconstruct the genetic sequences of long-dead organisms. Advanced DNA sequencing technologies have revolutionized paleogenomics, allowing researchers to sequence entire genomes from ancient remains, even those tens of thousands of years old. These technologies help overcome challenges like DNA degradation and

contamination. Paleogenomics has provided significant insights into human evolution. Sequencing Neanderthal and Denisovan genomes revealed interbreeding with modern humans, contributing to contemporary human genetic diversity. Studies of ancient pathogens have also illuminated the history of diseases and their impacts on human populations. The field also includes studying extinct animals and plants. Paleogenomic research has reconstructed the genomes of woolly mammoths and other Ice Age megafauna, offering clues about their adaptations and extinctions. Similarly, ancient crop and domesticated animal genomes provide insights into the history of agriculture and human civilization. In summary, paleogenomics bridges ancient and modern biology, enhancing our understanding of evolutionary processes that have shaped life on Earth. Its interdisciplinary approach, combining genetics, archaeology, and computational biology, continues to uncover new chapters of the past, informing our knowledge of the natural world and our place within it.

2. Post-processual archaeology

Post-processual archaeology is a theoretical approach that emerged in the late 20th century, largely influenced by the work of Ian Hodder. This approach arose as a reaction against processual archaeology, which emphasizes scientific methods and seeks to explain cultural changes through general laws and environmental factors. In contrast, post-processual archaeology focuses on human agency, subjective experiences, and symbolic aspects of past societies. Central to post-processual archaeology is the idea that the past cannot be understood solely through objective data and scientific methods. Instead, it advocates for an interpretive approach, considering multiple perspectives and the meanings people in the past attached to their actions and artifacts. This approach often integrates theories from anthropology, sociology, and literary criticism, emphasizing context and the diversity of human experience. Ian Hodder and other post-processual archaeologists critique the notion that cultural evolution can be understood through universal laws. They argue that individual and group identities, power relations, ideology, and symbolism play crucial roles in shaping human history. They also stress the active role of people in creating and interpreting their world, rather than being passive subjects of environmental or economic forces. This perspective has led to a more nuanced understanding of past societies, highlighting issues such as gender, ethnicity, and social inequality, often overlooked in earlier interpretations. It has also encouraged more collaborative and inclusive research practices, involving descendant communities and acknowledging their perspectives and knowledge.

3. Liangzhu culture

The Liangzhu culture, dating from approximately 3300 to 2300 BCE, was a Neolithic civilization in the Yangtze River Delta region of China. Renowned for its advanced jade craftsmanship, the

Liangzhu culture is considered one of the most sophisticated prehistoric cultures in China. The society was highly organized, with evidence of complex social structures, large settlements, and impressive hydraulic engineering projects. Central to the Liangzhu culture was the production of jade artifacts, including cylindrical tubes, discs, and various ritual objects. These items were often intricately carved with symbolic motifs, reflecting the society's spiritual beliefs and hierarchical social system. The use of jade, a material requiring significant labor and skill to craft, indicates the presence of an elite class with access to specialized knowledge and resources. Archaeological findings at Liangzhu sites have revealed large-scale constructions such as palaces, city walls, and extensive water management systems. These include dams, reservoirs, and canals, demonstrating advanced engineering capabilities and a sophisticated understanding of hydraulic principles. These constructions likely supported agriculture and protected the settlements from flooding, contributing to the civilization's prosperity. The Liangzhu culture also engaged in extensive trade networks, as evidenced by the presence of jade artifacts and other materials from distant regions. This exchange facilitated cultural and technological diffusion, further enriching the Liangzhu society. Despite its advancements, the Liangzhu culture mysteriously declined around 2300 BCE, possibly due to environmental changes or social upheaval. However, its legacy persists, as its jade artifacts and architectural achievements continue to provide valuable insights into early Chinese civilization. The Liangzhu culture exemplifies the complexity and ingenuity of Neolithic societies in China, highlighting their contributions to the region's historical and cultural development. Its influence is evident in subsequent Chinese dynasties, reflecting a deep-rooted cultural continuity.

4. Ahmarian toolkit

The Ahmarian toolkit is associated with the Ahmarian culture, a Paleolithic industry that existed around 47,000 to 37,000 years ago in the Levant region, which includes parts of modern-day Israel, Jordan, Lebanon, and Syria. This toolkit represents an important phase in the development of early modern human technology and is characterized by its distinctive lithic (stone) tools. Central to the Ahmarian toolkit are bladelets and blades, which were produced using advanced flintknapping techniques. These tools exhibit a high degree of standardization and sophistication, indicating skilled craftsmanship. The bladelets, often used as components of composite tools or weapons, were likely hafted onto handles made of wood or bone, enhancing their utility for hunting and processing animal hides. The Ahmarian toolkit also includes end scrapers, burins, and retouched pieces. End scrapers were primarily used for working animal hides, preparing them for clothing or shelter construction. Burins, on the other hand, were employed in engraving or carving wood, bone, and antler, reflecting the versatility of Ahmarian tools in various subsistence activities. Another notable feature of the Ahmarian industry is the presence of personal ornaments, such as beads and pendants made from bones, shells, and other materials. These items suggest a degree of social complexity and symbolic behavior, as they were

likely used for personal adornment or as indicators of social status and group identity. The Ahmarian toolkit represents a significant technological and cultural advancement in the Upper Paleolithic period. It highlights the adaptive strategies and innovative capabilities of early modern humans in the Levant, contributing to our understanding of human evolution and migration patterns.

5. XRF

X-ray Fluorescence (XRF) is an analytical technique used to determine the elemental composition of materials. It is widely employed in fields such as geology, archaeology, material science, and environmental science. XRF offers a non-destructive means of analyzing the chemical properties of a wide range of substances, including metals, ceramics, glass, and soil. The principle behind XRF involves exposing a sample to a source of X-rays. When these high-energy X-rays strike the atoms in the sample, they dislodge inner-shell electrons. As outer-shell electrons fill the vacancies, they emit secondary (or fluorescent) X-rays. Each element emits X-rays at characteristic energies, which can be measured to identify and quantify the elements present. In archaeology, XRF is invaluable for sourcing and authenticating artifacts. By analyzing the elemental composition of materials such as pottery, tools, and pigments, researchers can trace their origins, manufacturing techniques, and trade routes. This information enhances our understanding of ancient cultures and their interactions. For instance, determining the provenance of obsidian artifacts can reveal trade networks and social interactions among prehistoric communities. XRF analysis can be conducted using either a handheld or a benchtop spectrometer. Handheld XRF devices are portable, allowing for in-field analysis and immediate results, which is particularly useful in archaeology for analyzing artifacts on-site. Benchtop spectrometers, on the other hand, provide more precise and comprehensive data in a laboratory setting. XRF's advantages include its speed, accuracy, and non-destructive nature, making it a preferred method for elemental analysis. Its application in archaeology, through the identification and sourcing of materials, significantly contributes to the reconstruction of ancient technological practices and trade networks, thereby enriching our understanding of past human societies.

6. Jomon pottery

Jomon pottery is a distinctive style of ceramic ware produced by the Jomon culture, which thrived in Japan from approximately 14,000 BCE to 300 BCE. Renowned for its elaborate designs and early use of pottery, the Jomon culture is one of the oldest known pottery-producing societies in the world. Characterized by its cord-marked patterns, Jomon pottery gets its name from the Japanese word "jomon," meaning "cord pattern." These patterns were created by pressing cords into the clay before firing, resulting in intricate and varied designs. Early Jomon

pottery was primarily utilitarian, used for cooking and storage, but over time, the designs became more elaborate, reflecting increased artistic expression and ceremonial use. The pottery is typically classified into several phases, each corresponding to different time periods and stylistic changes. Early Jomon pottery is simple and functional, while Middle and Late Jomon pottery features more complex shapes and decorations, including flame-like rims and figurative motifs. The evolution of Jomon pottery styles provides valuable insights into the social and cultural developments of the Jomon people. Jomon pottery was made using coiling techniques, where clay ropes were stacked and smoothed to form vessels. This method allowed for a variety of shapes and sizes, from small pots to large storage jars. The clay was then fired in open pits or simple kilns, hardening the pottery and making it durable. The study of Jomon pottery is crucial for understanding the Jomon culture's daily life, rituals, and social structure. The widespread distribution of Jomon pottery also indicates trade and interaction among different Jomon communities.

7. BMAC

The Bactria-Margiana Archaeological Complex (BMAC), also known as the Oxus Civilization, flourished in Central Asia between 2300 and 1700 BCE. This Bronze Age culture, located in present-day Turkmenistan, Uzbekistan, Tajikistan, and Afghanistan, is noted for its distinctive urban centers, advanced metallurgy, and complex social structures. BMAC settlements were characterized by fortified cities with elaborate architecture, including monumental buildings, palaces, and temples. These urban centers, such as Gonur Tepe and Altyn Tepe, were well-planned, featuring extensive irrigation systems that supported agriculture. The presence of granaries and storage facilities indicates a surplus economy, suggesting a high degree of social organization and administrative control. Artifacts from the BMAC reveal advanced metallurgical skills, including the production of bronze tools, weapons, and ornate jewelry. The craftsmanship of these items reflects both practical and artistic sophistication. Additionally, the discovery of seals, pottery, and figurines suggests the existence of a rich cultural and religious life, with possible links to the later cultures of the Indus Valley and Mesopotamia. The BMAC played a significant role in regional trade networks, evidenced by the exchange of goods with distant regions such as the Indus Valley, Mesopotamia, and the Iranian plateau. This interaction facilitated cultural and technological diffusion, enriching the BMAC society and its neighbors. Despite its achievements, the BMAC declined around 1700 BCE, possibly due to climatic changes, internal strife, or invasions by nomadic groups. However, its legacy persists in the archaeological record, providing valuable insights into the complexities of early urban societies in Central Asia. The study of the BMAC enhances our understanding of early civilization dynamics, highlighting the interplay between environment, technology, and social organization.

8. Strontium isotope analysis

Strontium isotope analysis is a powerful tool used in archaeology, geology, and environmental science to investigate the origins and movements of people, animals, and materials. This technique relies on the fact that strontium isotopes (specifically ^{87}Sr and ^{86}Sr) vary geographically due to the geological makeup of the Earth's crust. In archaeology, strontium isotope analysis is primarily applied to study human and animal migration patterns. Strontium isotopes are absorbed by living organisms through food and water. As teeth and bones form, they incorporate the strontium isotopic signature of the local environment. By analyzing the strontium isotope ratios in archaeological human remains, researchers can compare them with local geological strontium signatures to determine if an individual was local or non-local to the area where they were buried. This method has provided insights into ancient human mobility, trade routes, and social interactions. For example, it has been used to track the movements of prehistoric populations, such as the migration patterns of the Bell Beaker people in Europe. Strontium isotope analysis revealed that many individuals buried with distinctive Bell Beaker artifacts were not local to the regions where they were found, indicating significant migration and cultural exchange. Another example is the study of the ancient Maya civilization. Strontium isotope analysis on human remains from various Maya sites helped researchers understand the extent of movement and interaction among different city-states, shedding light on the political and social dynamics of the time. The technique involves sampling teeth or bone, typically through non-destructive methods, and measuring the strontium isotope ratios using mass spectrometry. The resulting data are compared to baseline maps of strontium isotopic variation, known as isoscapes, which represent different geological regions. Strontium isotope analysis offers a unique perspective on past human behaviors and environmental interactions. Its ability to trace the movement and origin of ancient populations and materials provides a deeper understanding of the complexities of past human life and their interactions with the landscape. This technique continues to be a vital tool in the multidisciplinary study of ancient human history.

9. Lapita culture

The Lapita culture, dating from approximately 1600 BCE to 500 BCE, represents a prehistoric Pacific Ocean people known for their navigational skills and distinctive pottery. Originating in the Bismarck Archipelago, the Lapita people spread across vast distances, reaching as far as Fiji, Tonga, and Samoa, establishing interconnected communities. Lapita pottery is characterized by intricate geometric designs created using dentate stamping techniques. These ceramics served both functional and ceremonial purposes, offering insights into the aesthetic sensibilities and social practices of the Lapita people. Archaeological sites often reveal large, stilted houses built on coastal or island environments. These structures reflect the adaptability of the Lapita people in exploiting maritime resources. The sites also contain various tools,

ornaments, and shell artifacts, indicating a well-developed material culture. The Lapita people are renowned for their maritime prowess, evidenced by the widespread distribution of their pottery and other cultural materials. Their voyages demonstrate advanced seafaring technologies and knowledge of ocean currents and winds. In addition to their navigational skills, the Lapita people brought domesticated animals such as pigs, chickens, and dogs to the islands they colonized. This introduction of livestock played a crucial role in their subsistence strategies, supporting agricultural practices and enhancing food security. Strontium isotope analysis has been instrumental in studying Lapita migration patterns. By examining isotopic signatures in human remains, researchers have traced their origins and movements, confirming the vast distances traveled by the Lapita. The Lapita culture's legacy is profound, as they are considered ancestors of many contemporary Pacific Island societies. Their navigational achievements and successful adaptation to island ecosystems highlight their ingenuity and resilience.

10. Public Archaeology

Public archaeology is a branch of archaeology that focuses on engaging the public in archaeological research, education, and preservation efforts. It aims to make archaeology accessible and relevant to a wider audience, fostering a deeper understanding and appreciation of cultural heritage. One key aspect of public archaeology is community involvement. This includes collaborative projects where local communities actively participate in excavations, artifact processing, and site preservation. Such projects not only enrich the archaeological process but also empower communities by connecting them to their own histories and cultural identities. Public archaeology also involves educational outreach. This can take the form of lectures, workshops, museum exhibitions, and school programs designed to teach people about archaeological methods and discoveries. By integrating archaeology into educational curriculums, students gain hands-on experience and a greater appreciation for the past. Another important element is public dissemination of research findings. Archaeologists use various platforms, such as books, articles, websites, and social media, to share their work with the public. This transparency helps demystify the field of archaeology and encourages public interest and support. Preservation and advocacy are also central to public archaeology. By raising awareness about the importance of protecting archaeological sites, public archaeologists work to safeguard cultural heritage from threats such as development, looting, and natural erosion. Advocacy efforts often involve lobbying for protective legislation and engaging in public campaigns. Public archaeology projects can have a significant impact on cultural tourism. Well-preserved and interpreted archaeological sites attract tourists, contributing to local economies and promoting cultural exchange. This aspect highlights the practical benefits of preserving and promoting archaeological heritage. Therefore, public archaeology bridges the gap between archaeologists and the public, ensuring that the knowledge and value of our shared heritage are accessible to all. Through community involvement, education, research dissemination, and

advocacy, public archaeology fosters a collective effort to preserve and celebrate our past.

問題 2

考古学に関連した文章の読解力を問う。

Question 2

To test reading comprehension of texts related to archaeology.

(1) 文化伝播や人の地域間交流などを復元する考古学研究における視点として、一つの物質の移動やその製作に関するプロセスで論理展開するのではなく、複数の文化現象・物質文化の製作プロセスを多角的な視点から俯瞰し、その現象の説明の妥当性について客観的に評価することが重要であるという視点がある。"package"はその複合的な考古遺物への視点を表現しており、その点を理解しているかをはかる。

As a perspective in archaeological research to reconstruct cultural diffusion and inter-regional exchange of people, it is important not to develop logic in terms of processes related to the movement of a single material or its production, but to oversee multiple cultural phenomena and material culture production processes from multiple perspectives and to objectively evaluate the validity of explanations for these phenomena. This is the viewpoint that the "package" is a composite of these processes. The "package" expresses that composite perspective on archaeological artefacts and measures understanding of this point.

(2) 文化伝播を客観的に評価するためには多角的な視点を取り入れつつ、その複数の情報について相互関連性を見出し、より妥当な過去の復元を進める必要がある。修士課程において取り組む研究において、多角的視点と、それぞれの情報の関連性を理解し、それが論理的に説明できるかを問う。

In order to objectively assess cultural diffusion, it is necessary to adopt multiple perspectives, while at the same time finding interrelationships between the multiple pieces of information and promoting plausible reconstructions of the past. In the research conducted during the Master's course, students will be asked whether they are able to understand and logically explain the multiple perspectives and the relevance of each piece of information.

問題 3

考古学における基本的な知識を問う。

Question 3

To test basic knowledge in archaeological science.

(1) 放射性炭素年代測定 Radiocarbon Dating

(2) 図に記載された各種の用語説明と、図に描かれている曲線や数値の意味を理解しているかをはかる。

To test understanding of the explanation of the various terms used in the diagram and the meaning of the curves and figures depicted in the diagram.

2025年度 金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

第1期募集 入学試験問題

（1枚のうち1枚目）

専攻名【人文学専攻】選抜区分【一般】

試験科目【日本古典文学（専門深化型プログラム日本語学日本文学）】

※解答は縦書であることが望ましい。

問題一 次の文をルビも含めて全文を翻刻しなさい。行取りはそのまま、文中の句点（。）に依らず、適宜句読点を用いること。

『弁才天利益和談鈔』による

問題二 日本における神仏習合について、具体的な文学作品を挙げながら論じなさい（六百字程度）。

2025 年度 1 期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学専攻 選抜区分 一般

科目名 日本古典文学（専門深化型プログラム日本語学日本文学）

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題一 研究のために必要なくずし字読解能力を有している。／研究のために必要なくずし字読解能力を有していない。

問題二 古典作品の背景にある文化、宗教について理解している。／古典作品の背景にある文化、宗教について理解していない。

2025年度 金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

第1期募集 入学試験問題

（3枚のうち1枚目）

専攻名【 人文学専攻】

【 選抜区分【 一般】】

試験科目【 日本語学日本文学（日本近代文学）】

問題一 次の文章は小川洋子「内田百閒「件」 繰り返し織り直される布」の全文である。これを読んで、次の問いに答えなさい。

(一) 本文における「布」の比喻について、近年の文学研究状況を踏まえて解説しなさい。

(二) あなたならば、「件」引用部をもとにどのような批評的言説を記すだろうか。その概要を、小川の文章を用いつつ記しなさい。

(小川洋子「内田百閒」件 繰り返し織り直される布)

『遠慮深いうたた寝』河出書房新社、2021年、213ページ1行目〜216ページ7行目)

問題二 以下は、いずれも奥野健男『日本文学史』（中公新書、一九七〇年）を参照したものである。これらを読んで、各問に答えなさい。

(一) 奥野は、本書の「
」で、「

」と述べている。これはどうい

うことか。具体例を少なくとも一つ挙げて説明しなさい。

(二) 奥野は、「

」について、次のように述べている。「

」(五〇〜五一頁) これはどういうことか。具体例を少なくとも一つ挙げて説明しなさい。

(三) 奥野は、大正期の文学について、「

」と述べている(八六頁)。これはどういうことか。具体例を少なくとも一つ挙げて説明しなさい。

2025 年度 1 期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学専攻 選抜区分 一般

科目名 日本近代文学
日本語学日本文学(日本近代文学)

解答例又は出題意図

出題意図

大問 1：小川洋子のエッセイを用い、日本近代文学研究における批評の時代的推移と受験者自身の着眼点と論文の構想力を問うた。

設問 1：出題文中に頻出する「布」あるいは「織物」の比喩からは、ロラン・バルト「作者の死」における有名な表現が思い浮かぶ。小川およびガイヤーが出題文においてこれらの語を用いる意味も「作者の死」を意識した表現であると考えられる。このことから、20 世紀後半のテキスト論以降の研究史をおおまかにも理解しているかを問うた。

設問 2：出題文中に引用されている内田百閒は、比較的読まれている作家でありながら日本近代文学研究史の中ではあまり論じられていない作家でもある。それは従来の研究がその特質を捉え損ねている結果である。これに対して小川は出題文中でひとつの切り口を示している。解答自身の切り口を小川との対比から叙述することで、その着眼点や構想力、また先行研究をどのように批判的に継承するかについての見識などを問うた。

大問 2：奥野健男『日本文学史』をもとに、日本近代文学史の基本的知識を問うた。

設問 1：日本近代文学における異文化接触に関する知見を問うた。

設問 2：日本近代文学の確立期とされる明治末期の文芸の歴史的意義に関する知見を問うた。

設問 3：大正期の文芸思潮に関する知見を問うた。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(2枚のうち 1枚目)

専攻名	人文学	選抜区分	○一般・外国人・社会
試験科目	比較文化学		

問題 1 以下のキーワードから想起される事柄・事象について、自身の研究対象・研究領域において任意に問題を設定し、論じなさい。

インターナショナル ローカル グローバル AI時代の文化・芸術

2025年度 金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

第1期募集 入学試験問題

（二枚のうち二枚目）

専攻名【 人文学 】 選抜区分【 〇一般・外国人・社会人 】
試験科目【 比較文化学 】

問題二 以下の文章を読み、文中の仏教の例を参照に、異なる文化圏に特定の文化が伝播し変容するときに、その文化の持つ普遍性はどのようなあり方を示すか、そしてそれを比較文化的に分析するとしたらどのような方法があるかを、具体的な例をあげて説明しなさい。

2025 年度 1 期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学 選抜区分 一般

科目名 比較文化学

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題 1

現代社会において文化や芸術が、ローカルからインターナショナルまでのさまざまな場面で、どのような意味を持つかを、とくに AI との関係で論ずることで、比較文化学分野の問題意識とその解決能力を判定する。

問題 2（問題二）

東アジアに仏教が伝播したときに、おもに翻訳というプロセスを経て、仏教の持つ普遍的なあり方にどのような問題が惹起されるかを論じた文章を読み、そこから自身の課題とする文化現象について、同様の問題を見だし、その意義を考察させることを意図する。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(7枚のうち 1枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	公認心理師養成プログラム		

問題1～6について指示に従って回答してください。なお、解答用紙には問題の順番に回答を行い、どの問に対する解答かわかるように記述してください。

【問題1】次の英文を日本語訳しなさい(引用文献の訳は不要)。

出典：Vervliet, B., Craske, M. G., & Hermans, D. (2013). Fear extinction and relapse: state of the art. *Annual review of clinical psychology*, 9, 215-248.のうち 219 ページ 37 行目～220 ページ 4 行目までから出題。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(7枚のうち 2枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	公認心理師養成プログラム		

【問題2】以下の英語論文を読み, その後の質問に回答しなさい。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(7枚のうち 3枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 ・ 外国人 ・ 社会人
試験科目	公認心理師養成プログラム		

問1 下線部のようなことが生じる一つの理由として、本論文ではどのような理由があげられているかを説明しなさい。

問2 本研究では、具体的にどのような結果がみられたのかを、本文中の情報にもとづき説明しなさい。

問3 本研究の結果から、抑うつと問題解決との関連について、どのようなことが言えるのか考察しなさい。

出典 : Raes, F., Hermans, D., Williams, M. J., Demyttenaere, K., Sabbe, B., Pieters, G. & Eelen, P. (2005). Reduced specificity of autobiographical memory: A mediator between rumination and ineffective social problem-solving in major depression? *Journal of Affective Disorders*, 87, 331-335.のうち 332 ページ 3 行目～333 ページ最終行までから出題 (一部改変) .

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(7枚のうち 4枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	公認心理師養成プログラム		

【問題3】 ①～⑩の中に入る適切な語句を答えよ。

- ADOS, M-CHAT, PARS-TR などは①の特性を評価する心理検査であり、PARS-TR は②形式を用いて、①を評価する。
- 強化子をチョコレートとして適切な行動の学習を図る場合、子どもが空腹時に行う方が効果的である。このように、強化子や弱化子の効果を強めたり弱めたりする手続きを③といい、上記の例は④と呼ばれる。
- 複数の説明変数(独立変数)が、疾患の有無など目的変数(従属変数)が2値の質的変数を説明し得るかについて検証する場合、分析方法には⑤が用いられる。
- WISC-Vには主要指標として、言語理解、⑥、流動性推理、ワーキングメモリー、処理速度指標がある。
- チョムスキーは、すべての人々は、母語を獲得するための生得的な⑦をもっていると考えた。
- 古典的条件づけにおいて消去学習成立後に条件刺激に随伴する環境などの文脈の変化によって条件反応が再出現することを⑧という。
- ⑨はシェイピングなどの行動形成に用いられる強化子の提示方法であり、バックアップ強化子と交換できる二次的強化子を用いる。
- ⑩は報酬、動機づけ、強化などに密接に関与すると考えられており、中脳からドパミン作動性の入力を受け取る報酬系の中心と考えられている脳部位である。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(7枚のうち 5枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	公認心理師養成プログラム		

【問題4】 (1)～(10)の中に入る適切な語句を答えよ。

人は、性的暴力、災害、戦闘、虐待、そして、命の危険に晒されるようなトラウマ的な出来事を体験、目撃することによって(1)を発症する場合がある。DSM-5TR では、以下のような症状がその基準としてあげられている。

- (2):フラッシュバックや悪夢など、意図せずトラウマ体験が繰り返し思い出される
- (3):トラウマに関連する思考や感情、そして、トラウマを思い出すような手がかりとなるような事柄を避けようとする
- (4):否定的な認知、興味や関心の喪失、周囲からの疎外感や孤立を感じる
- (5):攻撃行動、自己破壊的な行動、過剰な警戒心、睡眠障害などが生じる

これらの症状が(6)以上持続し、明らかな苦痛や、社会生活・日常生活に支障をきたすような状況が生じた場合に、(1)と診断される。一方で、これらの症状が4週間以内に治るような場合には、(1)とは区別し、(7)の診断基準が設けられている。

(1)の治療には、持続エクスポージャー療法、認知処理療法、そして、眼球運動を用いて脳内の情報処理を活発にし、外傷的な記憶の脱感作と再構成を行う(8)などが効果的であると考えられている。また子どもを対象とした療法として、(9)がある。心の怪我・傷であるトラウマは目に見えないため、周囲の人々がその存在に気づきにくいという問題がある。また、ある問題行動の背景には、過去の逆境体験やトラウマの影響があるようなケースも多く存在し、全ての人々が公衆衛生の知識レベルで正しく、トラウマについて理解し、その情報が社会の中で広く周知される必要があるといわれている。このような、トラウマ影響についての正しい知識を持ち、その知識に基づいた関わりを行うことを(10)と呼ぶ。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(7枚のうち 6枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	公認心理師養成プログラム		

【問題5】以下の事例に対する問1～3に解答せよ。

クライアントA(30歳、会社員)は1ヶ月前から無断欠勤が増え、食欲の低下と不眠が現れている。心配した配偶者が精神科への受診をすすめ、精神科医が診察と投薬治療を開始した。精神科医は身体的な問題がないことを確認した上で、外部の公認心理師に面接を依頼した。公認心理師との面接では「仕事が辛い、生きる希望がない」と訴えた。その理由について話を聞くと、会社の会議で大勢の人がいる前でひどく叱責されたことがあり、その後電車通勤中に激しい動悸や窒息感、手足の痺れを感じて死んでしまうのではないかと思うような体験があったことを打ち明けた。そして、通勤の度に似たような症状が起きるかもしれないと思うと電車に乗ることが非常に怖くなってしまい、無理して電車通勤しても動悸や息苦しさが気になってちょっとしたことで不安になることに気疲れして仕事に行く気力がなくなったという。また、心臓の動悸や息苦しさに敏感になり、ちょっとした体の辛さがあると仕事中でも気になって休憩しているが、仕事での集中力が低下したことでミスが増えている。さらに、通勤の緊張を紛らわすために家族に隠れて朝から習慣的に飲酒しているともいう。家族には心配をかけたくないので今の状態について詳しく話していない。

問1: 公認心理師がAに適切な対応を行うために主治医に確認すべき事柄は何か?

問2: Aの配偶者からAの状態について詳しく知りたいという要望があった。公認心理師として望ましい対応として考えられることは何か?

問 3: 不安症が関与していると想定した場合、A の不安症はどのようなものであり、それはどのようなプロセスで維持されていると考えられるかを事例から読み取れる情報に基づいて述べよ。

2025年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

第1期募集 入学試験問題

(7枚のうち 7枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 ・ 外国人 ・ 社会人
試験科目	公認心理師養成プログラム		

【問題6】

ある研究者が、都市部に在住する中学生とその保護者($n = 1500$ 組)を対象として、年間の世帯年収と子どもの学業達成の程度(到達度テストの成績)の関連を検証した。世帯年収は保護者に回答を求め 10 段階で評定した。学業達成の程度は学校で実施される到達度テストの成績(偏差値)で評価でした。到達度テストは全国一斉に行われたテストを利用した。

相関分析を行ったところ、世帯年収と学業達成の間には中程度の正の相関($r = .32, p < .001$)が認められた。この結果を受けて、当該研究者は「世帯年収(年間)が高い家庭の子ども(中学生)ほど学業達成の程度が高い」と結論づけた。

しかし、科学的な観点からすると、この結論は妥当ではないと思われる。より適正に家庭の世帯年収(年間)とその家庭の子ども(中学生)の学業達成の程度の関連を検証するためには、どのような研究計画および分析方法が必要と考えられるかについて論じよ。ただし、解答する研究計画および分析方法は具体的に記述し、その合理性も併せて示せ。加えて、どのような分析結果が得られる場合に、家庭の世帯年収(年間)とその家庭の子ども(中学生)の学業達成の程度の関連が実証されるかについても説明せよ。

2025年度1期金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学専攻 選抜区分 一般
科目名 公認心理師養成プログラム

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題1 解答例

恐怖の再発は、系統的脱感作療法後に恐怖が再び現れることとして初めて報告された。一般的に、恐怖のレベルは、治療前、治療後、そして数週間から数ヶ月後のフォローアップ評価の際に、行動回避テストで評価される。クライアントは、できるだけ恐怖の対象に徐々に近づくように求められ、各ステップでの恐怖のレベルを報告する。同時に、不安の心理生理学的指標（例えば、皮膚コンダクタンス、心拍数）を測定することができる。通常の観察結果では、治療前から治療後の評価にかけての恐怖が減少する。恐怖の再発は、治療後からフォローアップにかけての恐怖の増加によって定義される。恐怖の再発は、特定の恐怖症、強迫性障害、広場恐怖症、パフォーマンス不安に対する曝露療法後に特に研究されてきた。既存の論文では、恐怖の再発の推定値は19%から62%の範囲となっている。他の研究では、パニック発作の再発や臨床的重症度の全体的評価を指標とすることで、より広範に再発の割合を報告している。例えば、曝露療法後にパニック障害の患者の23%から27%が再発すると報告されている。治療が成功した後に恐怖の再発が珍しくないことではなく、既存の（曝露に基づく）治療の長期的な治療成績に深刻な課題を突きつけていることは明らかである。

問題2 問1～3 出題意図

本学の公認心理師養成プログラムでは、「科学者—実践者モデル」を基本とし、臨床心理学的な問題について研究を実施することでエビデンスを提示し、そのエビデンスに基づき実践ができる学生の養成を目標としている。そのため、本問題は、引用数が高い学術論文の結果を読み取れるかどうかを問う問題である。

問題3 解答

①：自閉スペクトラム症、②：半構造化面接、③：確立操作、④：遮断（遮断化）、⑤：ロジスティック回帰分析、⑥：視空間、⑦：言語獲得装置、⑧：復元、⑨トークンエコノミー（トークンエコノミー法）、⑩線状体（側坐核、腹側線状体）

問題4（仮）

（1）：心的外傷後ストレス障害、（2）侵入症状、（3）回避症状、（4）認知・気分の陰性変化、（5）覚醒度・反応性の著明な変化、（6）1ヶ月、（7）急性ストレス障害、（8）眼球運動による脱感作と再処理法、（9）トラウマフォーカスト認知行動療法、（10）トラウマインフォームドケア

問題5 出題意図

問1

主治医の指示のもとで心理支援を行うためにどのような意図・目的で心理実践を行うことが望ましいかを主治医と共有すること、精神医学的診断と投薬治療の内容を確認すること、飲酒が習慣化しているというハイリスクな状態について医師がどのように対応しているかを確認するといった医師との連携について触れられていること。

問2

配偶者であっても守秘義務のためAの状態について許可なく知らせることはできないことを配偶者

に伝えること、一方でAには家族のサポートも必要と考えられるため家族に心配をかけたくない気持ちに共感しつつ配偶者と問題を共有することによってサポートが得られる可能性について話し合うといった、守秘義務を前提としてクライアントの利益につながる対応について触れられていること。

問3

以下のようなパニック症の病理に基づいてAの症状が説明されていること。

Aは通勤途中に強い身体症状を体験しておりこれはパニック発作であると考えられる。このパニック発作の経験によって電車を回避していることから広場恐怖も現れている。Aは電車通勤中にパニック発作が起きることを予期して不安が生じ、不安の上昇に伴う身体感覚の変化に過敏になりパニック発作の予兆であると解釈している。その結果、パニック発作に対する恐怖が増大し、パニック発作を回避しようとする行動が現れている。

問題6 出題意図

調査法をはじめ心理学で用いられる多くの研究方法では、分析結果から、変数間の因果性や関連性は断定することはできない。そのため、Scientist—Practitionerモデルを規範とする公認心理師として、調査法で得られた分析結果の解釈、変数間の関連性を実証し得る調査法（研究計画）および分析方法は必要不可欠な技能であると考えられる。

2024年度 金沢大学大学院人間社会環境研究科 (博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(3枚のうち 1枚目)

専攻名【 人文学
試験科目【 東洋史学

】選抜区分【 一般・外国人・社会人】

*試験問題には、問題1、問題2および問題3がある。それぞれの指示に注意しながら、問題1と問題3の全
てに解答すること。問題用紙は全部で3枚ある。

*解答用紙は「横書き」で用いること。また、解答の際には、問題ごとに解答用紙を替えて解答すること。

問題1

以下の文章の、線で囲ったAとBの部分を、それぞれ現代日本語に訳しなさい。

2024年度 金沢大学大学院人間社会環境研究科 (博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(3枚のうち 2枚目)

専攻名【 人文学】

【選抜区分【 一般・外国人・社会人】

試験科目【 東洋史学】

問題2

以下の史料は『晋書』巻七十八に収められた孔坦の伝記の一部で、東晋明帝咸和二年(西暦327年)に発生した蘇峻の乱に関する史料である。この史料の本文部分全体を現代日本語に訳しなさい。なお翻訳にあたっては、参考として掲げた概略図も参照し、前後の文意の繋がりや状況が明らかになるよう留意すること。

『晋書』巻七十八 孔愉伝附従子坦伝より

〔(唐)房玄齡等撰『晋書』第七冊(中華書局、一九七四年)二〇五六頁四行目〜十一行目。〕

2024年度 金沢大学大学院人間社会環境研究科 (博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(3枚のうち 3枚目)

専攻名【 人文学】

【 選抜区分【 一般・外国人・社会人】】

試験科目【 東洋史学】

】

問題3

以下の語句のうちから5つを選び、その内容や歴史的意義などについて、現代日本語もしくは現代中国語で説明しなさい。

官戸 淮河 摩生 正一教 桓玄 破崗瀆
四部分類 高仙芝 松漠紀聞 南唐 西嶋定生

〈以上〉

2024 年度 10 月入学 金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）
学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学 選抜区分 私費外国人留学生

科目名 東洋史学

解答例又は出題意図

〈出題意図〉

問題 1

修士論文の執筆に不可欠な関連知識の確認に加え、
学術論文の読解力と日本語の表現力を問うものである。

問題 2

修士論文の執筆に不可欠な関連知識の確認に加え、関連する史料の理解力など、
その史料を正確に解釈できる能力を多面的に問うものである。

問題 3

修士論文の執筆に不可欠な、東洋史学に関する基礎的知識を幅広く会得しているか
どうかを問うものである。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

2024, Kanazawa University, Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies, Examination Question

(4枚のうち 1枚目)

専攻名 Division	人文 Humanities	選抜区分 Selection	外国人(International)
試験科目 Subject	考古学 Archaeology		

問題 1. 下記の英文を読んで問いに答えなさい。

(出典 Catherine Hills, "Historical Archaeology and Text," Colin Renfrew and Paul Bahn (eds.), *Archaeology The Key Concepts*, London and New York: Routledge, 2005, p. 104, 1. 10-1. 46.)

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

2024, Kanazawa University, Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies, Examination Question

(4枚のうち 2枚目)

専攻名 Division	人文 Humanities	選抜区分 Selection	外国人(International)
試験科目 Subject	考古学 Archaeology		

(1) 文章に述べられている歴史考古学の一般的な問題と自身が専門とする歴史考古学の問題について議論しなさい。

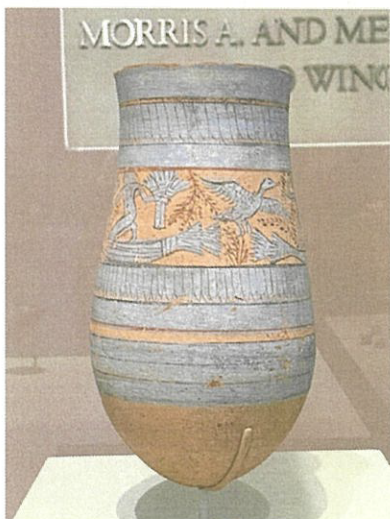
(2) “

”と文章にあります。このことを具体的な事例を示して説明しなさい。

問題2. 下記の用語から5つ選んで解説しなさい。

1. 相対年代(Relative Dating)
2. セリエーション(Seriation)
3. 民族考古学(Ethnoarchaeology)
4. W. フリンダース・ピートリー(W. Flinders Petrie)
5. 環境遺物(Ecofacts)
6. スカラベ形印章(Scarab Seals)
7. ポスト・プロセス考古学(Post Processual Archaeology)
8. 放射性炭素年代決定法(Radiocarbon Dating)
9. V.ゴードン・チャイルド(V. Gordon Childe)
10. 考古学におけるマトリックス(Matrix in Archaeology)

問題3 下記の写真に示された遺物について解説しなさい。



© Nozomu Kawai

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

2024, Kanazawa University, Graduate School of Human and Socio-Environmental
Studies, Examination Question

(4枚のうち 3枚目)

専攻名 Division	人文 Humanities	選抜区分 Selection	外国人(International)
試験科目 Subject	考古学 Archaeology		

問題 4. 下記の英文を読んで問いに答えなさい。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

2024, Kanazawa University, Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies, Examination Question

(4枚のうち 4枚目)

専攻名 Division	人文 Humanities	選抜区分 Selection	外国人(International)
試験科目 Subject	考古学 Archaeology		

(出典 Anna Stevens, "Egypt," Timothy Insoll (ed.), *Oxford Handbook of Archaeology of Ritual & Religion*, Oxford: Oxford University Press, 2011, p. 736, 1.2-1.43)

- (1) 上記の英文の要点をまとめ、評価しなさい。
- (2) 古代エジプトにおける死者への供物や祝祭の供物としてどのような考古学的資料が存在するか解説しなさい。また、エジプトの考古遺跡における具体例も示しなさい。
- (3) アマルナ非エリート墓地の特殊性について説明しなさい。

問題5

- (1) 大学院で研究を進める予定の研究テーマの研究の現状、問題点、課題について述べなさい。

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学 選抜区分 外国人

科目名 考古学

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題 1

歴史考古学の特徴と問題についての認識を問う問題。解答例を以下に示す。

- (1) 歴史考古学はかつて文献史学の補助学と見なされてきた。歴史的出来事の概要でさえ、ましてや最近の数世紀について利用可能な複雑で詳細な文書資料の数々は、考古学的理論を不要なものとし、考古学的証拠を解釈のための独立した根拠を提供するのではなく、図解のための情報源に矮小化してきたきらいがある。考古学的証拠が特定の出来事に関する解釈の影響を受けやすいことはめったにないため、考古学を政治的叙述の代用として使おうとする試みは、しばしば誤解を招く。このような試みは歴史家に誤った期待を抱かせ、歴史家は考古学的証拠が彼らの疑問に対する答えを与えてくれないことに失望する。かつてのエジプト学は文献学と美術史が中心で、考古学は古代エジプトの文字史料や図像資料を裏付ける遺物を提供するものと考えられていた。しかし、近年ではエジプト学において考古学の貢献の重要性が認識され、考古学は古代エジプトに関する豊富な情報を独自に提供するために不可欠な学問となった。
- (2) 聖書考古学とイスラエル民族主義的考古学は、その実践者が扱っているのが中東のわずかな時間区分と特定の問題だけであるため、一般的な考古学論争にはほとんど影響を与えない考古学の一分野である。しかしそのために、これらの考古学は、イスラエルがその国民国家の基盤としている知識生産において、ほぼ独占的な覇権を握ってきた。聖書考古学者に対する一般的な態度は、中東では過去が政治的に悪用されており、聖書考古学研究は偏っているというものである。聖書考古学者は、年代によっていくつかの解釈が可能な場合、常に宗教的解釈を選択する傾向がある。イスラエルの民族主義的な考古学者は、いくつかの解釈が可能なデータがある場合、常に民族的な解釈を選択する傾向がある。したがって、聖書考古学とイスラエル考古学は、イスラエルという国の存在を正当化するために用いられてきた。

問題 2 考古学の用語の理解を問う問題。

1. 相対年代：相対年代は、AはBよりも古いという相対的な新旧関係で表記される年代のことである。正確な年代を示すのではなく、ある出来事や物体が他の出来事や物体より古いかどうかを判断する。これは、考古学的資料の様々な側面や特徴を分析することによって達成される。
2. セリエーション：地層や遺物を年代順に並べる方法である。新しいモノは次第にあるいは急速に台頭し、それに合わせて、古いモノは次第に姿を消す。こうしたモノの変遷を視覚的・数量的に示す手法がセリエーションである。
3. 民族考古学：民族考古学とは、現存する伝統的文化を保持する小規模な民族集団を調査し、そこで得られた知見に基づいて、過去の考古学上のデータから様々な人間の活動パターンを復元する際の比較資料やモデルを作り出そうとしたり、ある考古学上の仮説を検討する基礎にしようとしたり試みるものである。

4. W. フリンダース・ピートリー：フリンダース・ピートリーはイギリスのエジプト考古学者で、考古学における体系的な方法論の先駆者である。彼の研究は、古代遺跡の正確な測定と年代測定を可能にした。彼が特に関心を持ったのは古代エジプトで、ギザの大ピラミッドに始まり、エジプト全土の数多くの遺跡を発掘した。彼の重要な発見の中には、イスラエルに関する最古の文献を含む「イスラエル碑」がある。ナカダで発掘された先王朝時代の土器を分類し、継起年代決定法(SD法)を確立した。

5. 環境遺物：環境遺物とは、文化的関連性を持つ非人工的な有機遺物や以前遺物のことである。遺存体とも言う。例えば、動物や花、土壌や堆積物などである。

6. スカラベ形印章：スカラベ形印章は、その名の通り甲虫（糞転がし）の形をしたお守りや印章で、古代エジプトで広く親しまれていた。今日でも大量に残っており、その碑文や類型を通して、これらの遺物は考古学者にとって重要な情報源となっている。

7. ポスト・プロセス考古学：1970年代、イギリスの考古学者イアン・ホダーとアメリカの考古学者マーク・レオーネを中心にプロセス考古学への批判から形成された。解釈学的考古学とも呼称される。構造主義・批判理論・新マルクス主義的思考に影響を受けつつ、一般化を避け「個別的説明」を行う傾向がある。ポスト・プロセス考古学では機能主義を排し、社会における個人の主体的な認知、思考、行動を重視します。

8. 放射性炭素年代決定法：放射性炭素年代決定法は元素記号 12 の炭素と元素記号 14 の炭素（放射性炭素）が自然界に存在する比率が決まっており、年代がたつと放射性炭素だけが一定の比率で減っていくという物理的特性を利用し、その割合を計測することにより年代を割り出すという方法。具体的には、放射性炭素は 5730 年という時間をかけて炭素同位体の数が半減する。1,2 グラムの炭があれば測定可能。ただし、この方法も 70% の確率で、20 年から 30 年の幅を持って算出されるので、数年の範囲での精密な年代特定は困難である。

9. V. ゴードン・チャイルド：V. ゴードン・チャイルドは、ヨーロッパ先史研究を専門とする考古学者。彼は生涯のほとんどをイギリスで過ごした。当初は文化史的考古学の初期の提唱者であったが、後に新石器革命や都市革命など、人類社会における革命的な技術的・経済的発展の役割を強調するなど、西欧世界におけるマルクス主義的考古学の最初の提唱者となった。その後、彼の解釈の多くは否定されている。

10. 考古学におけるマトリックス：マトリックスとは、遺物が埋め込まれている、あるいは支えられている物理的な物質のことである。

問題 3. 古代エジプト新王国時代の特徴的な土器の知識を問う問題。

青色彩文土器は、古代エジプトで最もよく知られた土器のひとつです。その主な特徴は、青色であること、花のモチーフを中心とした装飾の種類が多いこと、形が派手であること、使用された期間がやや短いこと（およそ第 18 王朝中期から第 20 王朝まで）、そして分布が限られていることである。青色彩文土器の主な出土地は、テーベ、メンフィス、アマルナ、グローブといった都市である。青のコバルトブルーの顔料は西砂漠が原産地である。その人気の高さにもかかわらず、この彩文土器の具体的な機能については、いまだに不明な点がある。

問題 4. 古代エジプトにおける死、埋葬習慣、来世観の理解を問う問題。

(1) 古代エジプトの葬送儀礼は、死、埋葬、そして死者に対する継続的な祭祀から構成される。当初はミイラ製作と儀礼的な護符の配置が中心であったが、これらの慣習はエリート層と非エリート層とで大きく異なっていた。アマルナでは、非エリートは伝統的なミイラ製作の痕跡を最小限にとどめていた。このような違いにもかかわらず、ある種の儀礼はエジプト社会全体で一

貫して行われていた。少なくとも古王国時代にまでさかのぼる「開口儀礼」は、死者に生気を与え、死後の世界に備える上で重要な役割を果たした。もう一つの重要な死後儀礼は「赤色土器の破壊」で、墓の近くで壺を砕き、悪霊を追い払った。同様の儀式は神殿でも見られ、エジプト生活のさまざまな領域で精神的な慣習が継続されていることを物語っている。

埋葬の後も、飲食物の供え物、共同での饗宴、故人の名前を口にすることで追悼行為を通じて、故人への配慮が続けられた。これらの活動は、故人を偲ぶだけでなく、死後の世界での旅を助けるための継続的な儀式としても機能した。つまり、古代エジプトの葬送儀礼は、単なる埋葬の習慣にとどまらず、死者が死後の世界へと無事に移行し、生者の生活の中に存在し続けることを確実にすることを目的とした、信仰と実践の複雑な枠組みを構成していたのである。これらの儀式は、社会的価値観、宗教的信念、そして数千年にわたってエジプト文明を形成してきた進化する文化的力学を反映していた。

- (2) 死者への供物の考古資料としては、墓や祠堂から出土するステラ（石碑）、供物卓、供物台、そして捧げられていた石製容器や土器の類がある。祝祭の供物としても奉獻用の土器やファイアンス容器などの遺物がある。墓や神殿に捧げられたものだけでなく、それぞれの奉納の後に廃棄された痕跡を示す土器の廃棄遺構なども存在する。これらの考古資料によって死者祭祀や祝祭の実態が明らかとなっている。
- (3) アマルナ時代には、アクエンアテンによる宗教革命によって、アマルナ墓地の埋葬習慣にいくつかの特殊性が見られる。アマルナ墓地では、考古学的記録から、墓が密集し、区別できるような目印が最小限に抑えられているという独特のパターンが明らかになり、共同体的な埋葬習慣と個人的な埋葬習慣という従来の解釈が覆された。いくつかの儀式は墓地で行われたかもしれないが、より広範な共同体レベルの追悼は隣接する空き地で行われた可能性がある。さらに、アマルナから出土した個人を描いたステラ、彫像、護符からもわかるように、墓地での儀式以外にも、個人が神殿への供物や祖先崇拝を通じて追悼していたことがうかがえる。しかし、ミイラ製作の習慣が制限されていたアマルナでも、開口儀礼の名残が見つまっている。例えば、幼い子供の墓から儀式に関連する小さな斧が発見されている。

問題 5. 大学院に入学後に対象とする研究の現状と課題を理解しているかを問う問題。

本問題は、受験生自らが研究テーマとして希望している研究の既往研究と現状を把握し、その問題点と今後の課題について明確に記述できるかを問う問題である。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(2枚のうち1枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	専門深化型・日本語学日本文学(日本語学)		

問題1 次の(1)から(7)の設問に答えなさい。

- (1) 漢語中古音の声母のうち群母と疑母は、どのような特徴を持つ音として再構(reconstruction)されているかを音声学の用語を使って答えなさい。
- (2) 群母と疑母を持つ字をそれぞれ5例ずつ(計10例)挙げなさい。
- (3) 群母と疑母を持つ字が日本漢字音の呉音と漢音でどのように現れるかを説明しなさい。なお、その説明において、呉音と漢音の間に見られる違いを示しなさい。
- (4) (3)の呉音と漢音の間に見られる違いについて、その背景に漢語音韻史のどのような変化が関わっているかを説明しなさい。
- (5) 現代日本語のガ行子音の音声実現(phonetic realization)について、次の3つの用語をすべて使って説明しなさい。
破裂音(plosive), 摩擦音(fricative), 鼻音(nasal)
- (6) 中世日本語京都方言の濁子音がどのような音声実現を持っていたと推定されるかを説明しなさい。
- (7) (6)の推定と、(5)の現代日本語のガ行子音の現れ方を考え合わせ、現代日本語のガ行子音に鼻濁音が現れる歴史的な背景について、あなたの考えを述べなさい。

問題2 漢語中古音の唇内入声(-p)について、次の(1)と(2)の設問に答えなさい。

- (1) 唇内入声を持つ字は、現代日本語の漢字音ではどのように現れるかを、例を挙げて説明しなさい。
- (2) 舌内入声(-t), 喉内入声(-k)と違って、(1)のように現れることについて、その主な原因となっている日本語の歴史的な音変化について説明しなさい。

問題3 現代日本語の助動詞「た」が表す主な二つの意味について、例文を示しながら説明しなさい。

(次頁につづく)

(2枚のうち2枚目)

問題4 次の(a)から(j)のそれぞれの平仮名の由来にあたる漢字を答えなさい。

(a)く (b)け (c)す (d)と (e)な (f)の (g)ま (h)よ (i)ら (j)ゐ

(問題および設問は以上で終わりです)

2024年度10月入学金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学専攻 選抜区分 外国人

科目名 専門深化型 日本語学日本文学(日本語学)

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題1

(1)から(7)の設問を通して段階を踏みながら、漢字音に関する基本的知識をもとに、日本語の主にガ行子音に関する音韻史の問題について考察ができるかを問う問題である。

まず、(1)から(4)においては、漢語音韻史、日本漢字音の基本的知識を問い、(5)では現代日本語の音声学、および音韻論の基本的事項を問うている。また、(6)では日本語の濁音に関する音韻史の問題を問うている。そのうえで、(7)では、歴史的な問題と現代日本語における状況がどのように関係するか（あるいはしないか）についての解答者の考えの提示を求めている。(7)については、論理的な論述によって自身の考えが提示されていればよく、特定の見解に従うことを求めるものではない。

問題2

漢語中古音の入声が日本漢字音にどのように反映されているか、そして、そのうちの唇内入声(-p)については、受容後、日本語の内部で生じたどのような音変化がこれに関わり、今日に至っているかを問う問題である。歴史的な過程を順序正しく示し、矛盾なく説明することを求めている。

問題3

現代日本語の助動詞「た」が表す意味について、テンスに関わるものと、ムードに関わるものについて、例文を的確に提示しながら、わかりやすく説明することを問うている。なお、「た」の意味については、「完了」を表す場合もあるとされ、また命令の用法があることから、それらに言及することも考えられるが、まずは、テンスとムードの二つの説明がなされていることを求めている。

問題4

仮名文字の形成に関するごく基本的な知識を問う問題である。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(6 枚のうち 1 枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	英語学英米文学		

I. 以下の英文を自然な日本語に訳しなさい。

(a)

John R. Searle, *The Rediscovery of the Mind*, Cambridge, Massachusetts: MIT Press, 1992 (pb. 1994), p. 83, ll. 13-30.

<NOTES>

- anesthetic : a substance or drug capable of either reducing or eliminating the feeling of pain in the body
- rheostat : a variable resistor used to control and change the amount of current flowing in an electric circuit

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)
10月入学 入学試験問題

(6 枚のうち 2 枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・ <u>外国人</u> ・社会人
試験科目	英語学英米文学		

(b)

Paulo Freire, *Pedagogy of the Oppressed*, trans. Myra Bergman Ramos, New York: Continuum, 2005, p.47, ll. 7-25.

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(6 枚のうち 3 枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・ <u>外国人</u> ・社会人
試験科目	英語学英米文学		

Ⅱ. 以下の文章を日本語または英語で解答用紙 1 枚以内にまとめなさい。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(6 枚のうち 4 枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・ <u>外国人</u> ・社会人
試験科目	英語学英米文学		

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(6 枚のうち 5 枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・外国人・社会人
試験科目	英語学英米文学		

John Carlos Rowe, "How the Boss Played the Game: Twain's Critique of Imperialism in *A Connecticut Yankee in King Arthur's Court*," in *The Cambridge Companion to Mark Twain*, ed. Forrest G. Robinson, Cambridge: Cambridge University Press, 1995, p.175, l.18-p.177, l.12.

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(6 枚のうち 6 枚目)

専攻名	人文学専攻	選抜区分	一般・ <u>外国人</u> ・社会人
試験科目	英語学英米文学		

Ⅲ. 選択問題

※ 本来<英語学>と<英米文学>の2つの分野から1つを選択して答える問題であるが、英語学の出願者がいないため、英米文学のみ出題する。

<英米文学>

(1) 次の語句のうち、3項目について、具体的な作家名や作品名を挙げながら、日本語または英語で論述しなさい。

- (a) race (b) realism (c) local color
(d) stream of consciousness (e) tragedy
(f) translation (g) humor

(2) 英米文学史上の作品を1つ選び、日本語または英語で、その重要性について解答用紙1枚以内で論じなさい。

2024 年度 10 月入学金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学専攻 選抜区分 外国人

科目名 英語学英米文学

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

出題意図：

大問 I (a)(b)

本専攻で学ぶ上で必要となる基本的な英文読解力を備え、正確な解釈ができているかを問うことに加え、それを日本語で表現できるかを見る。

大問 II

本専攻で学ぶ上で必要となる基本的な論文読解能力、表現力を備えているかを見る。

大問 III（選択問題：今回は英米文学のみ）

問(1) 英米文学分野の基本的な概念についての知識と理解度を問う。

問(2) 英米文学分野の基礎知識を有し、それを自分なりの観点から論理的に表現する能力を備えているかどうかを見る。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(2枚のうち 1枚目)

専攻名	人文学	選抜区分	○一般・外国人・社会人
試験科目	比較文化学		

問題 1 以下のキーワードから想起される事柄・事象について、自身の研究対象・研究領域において任意に問題を設定し、論じなさい。

インターナショナル ローカル グローバル AI時代の文化・芸術

2024年度 金沢大学大学院人間社会環境研究科 (博士前期課程)

一〇月入学 入学試験問題

(二枚のうち二枚目)

専攻名【 人文学

】選抜区分【 〇一般・外国人・社会人】

試験科目【 比較文化学

】

問題二 以下の文章を読み、文中の仏教の例を参照に、異なる文化圏に特定の文化が伝播し変容するときに、その文化の持つ普遍性はどのようなあり方を示すか、そしてそれを比較文化的に分析するとしたらどのような方法があるかを、具体的な例をあげて説明しなさい。

2024 年度 10 月入学金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学 選抜区分 一般

科目名 比較文化学

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題 1

現代社会において文化や芸術が、ローカルからインターナショナルまでのさまざまな場面で、どのような意味を持つかを、とくに AI との関係で論ずることで、比較文化学の分野の問題意識とその解決能力を判定する。

問題 2（問題二）

東アジアに仏教が伝播したときに、おもに翻訳というプロセスを経て、仏教の持つ普遍的なあり方にどのような問題が惹起されるかを論じた文章を読み、そこから自身の課題とする文化現象について、同様の問題を見だし、その意義を考察させることを意図する。

2024年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)

10月入学 入学試験問題

(2枚のうち 1枚目)

専攻名	人文学	選抜区分	一般・○外国人・社会人
試験科目	比較文化学		

問題 1 以下のキーワードから想起される事柄・事象について、自身の研究対象・研究領域において任意に問題を設定し、論じなさい。

インターナショナル ローカル グローバル AI時代の文化・芸術

2024年度 金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

一〇月入学 入学試験問題

（二枚のうち二枚目）

専攻名【 人文学 】 選抜区分【 一般・〇外国人・社会人 】
試験科目【 比較文化学 】

問題二 以下の文章を読み、文中の仏教の例を参照に、異なる文化圏に特定の文化が伝播し変容するときに、その文化の持つ普遍性はどのようなあり方を示すか、そしてそれを比較文化的に分析するとしてらどのような方法があるかを、具体的な例をあげて説明しなさい。

2024 年度 10 月入学金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程）

学力検査問題解答例・出題意図

専攻名 人文学 選抜区分 外国人

科目名 比較文化学

解答例又は出題意図

【別紙の添付又はデータによる提出の場合は、その旨を記載願います。】

問題 1

現代社会において文化や芸術が、ローカルからインターナショナルまでのさまざまな場面で、どのような意味を持つかを、とくに AI との関係で論ずることで、比較文化学の分野の問題意識とその解決能力を判定する。

問題 2（問題二）

東アジアに仏教が伝播したときに、おもに翻訳というプロセスを経て、仏教の持つ普遍的なあり方にどのような問題が惹起されるかを論じた文章を読み、そこから自身の課題とする文化現象について、同様の問題を見だし、その意義を考察させることを意図する。